

伏虎中学校跡地活用基本構想

市民会館構想

平成 28 年 3 月

和歌山市

目 次

「市民会館基本構想」の策定にあたって.....	1
1. 国や他の自治体の動向.....	1
2. 上位関連計画.....	2
3. 現在の市民会館.....	3
3.1. 現在の市民会館の敷地位置.....	3
3.2. 施設概要.....	4
3.3. 利用状況.....	5
3.4. 運営状況.....	7
3.5. 建物状況.....	8
3.6. 現在の市民会館の課題.....	9
4. 市民の意向.....	10
4.1. 市民アンケート調査.....	10
4.1.1. 現在の市民会館について.....	11
4.1.2. 新たな市民会館について.....	12
4.2. 市政世論調査.....	14
4.3. 市民会館建替えに関するアンケート調査.....	16
4.3.1. 現在の市民会館について.....	16
4.3.2. 新たな市民会館について.....	19
4.4. ワークショップ.....	23
4.4.1. 現在の市民会館について.....	23
4.4.2. 新たな市民会館について.....	25
4.5. 市民発信の意見.....	31
4.6. 調査等からの市民ニーズの分析.....	33
4.7. 市民ニーズからの課題.....	35
5. 市民会館再整備の考え方.....	36
5.1. 再整備の検討.....	36
5.2. 移設先の伏虎中学校跡地.....	37
5.2.1. 新市民会館の位置.....	38
5.2.2. 伏虎中学校跡地内の敷地検討地.....	40
6. 他市の市民会館整備事例.....	41
6.1. 近年、建設された多目的でコンパクトな施設.....	41
6.2. 運営の工夫により多くの人々に利用されている施設.....	44
6.3. 市民会館を取り巻く動向.....	45

7. 新市民会館の新たな可能性	46
7.1. ジャンル別のホール需要	46
7.2. 市民会館利用の需要	47
8. 課題の整理	48
9. 新市民会館の基本理念	49
10. 新市民会館の基本方針	50
10.1. 新市民会館の基本方針	50
10.2. 新市民会館の施設整備の方針	52
10.3. 新市民会館の施設運営の方針	53
11. 実現に必要な機能	54
12. 主な施設	55
12.1. 施設構想	61
12.2. 施設配置イメージ	62
12.2.1. 施設の配置パターン	62
12.2.2. 主な施設のつながり	63
12.2.3. 敷地周辺との動線イメージ	64
12.3. 建物イメージ	65
12.4. 概算事業費	66
13. 景観について	66
13.1. 景観整備の考え方	66
13.2. 市民会館建設予定地にかかる景観等に関する制限について	67
14. 管理運営	68
14.1. 運営組織	68
14.2. 専門の知識を持った人材の配置と活用	70
14.3. 管理運営の方向性	72
15. 整備手法	73
15.1. 民間活力の活用を含む事業手法	73
15.2. 民間活力導入の可能性と検討手順	74
16. 整備スケジュール	75
17. 管理運営、施設整備の検討課題	76

図 表 目 次

図表 3.1	現在の市民会館の位置	3
図表 3.2	ホールの概要	4
図表 3.3	ホールの年間稼働率の推移グラフ	5
図表 3.4	展示室の年間稼働率の推移グラフ	6
図表 3.5	会議室の年間稼働率の推移グラフ	6
図表 3.6	練習室の年間稼働率の推移	6
図表 3.7	和室の年間稼働率の推移	6
図表 3.8	市民会館・県民文化会館の「土日祝」の稼働率	7
図表 3.9	市民会館の設備劣化	8
図表 4.1	市民アンケート：文化活動別の市内の施設利用状況	11
図表 4.2	市民アンケート：新市民会館に重要なもの	12
図表 4.3	市民アンケート：新市民会館のメインホール	13
図表 4.4	市民アンケート：新市民会館のメインホール以外の施設	13
図表 4.5	市政世論調査：市民会館の移設について	14
図表 4.6	市政世論調査：新市民会館の市民ホールについて	14
図表 4.7	市政世論調査：新市民会館に必要な設備について	15
図表 4.8	市民会館建替えに関するアンケート（利用者）：現在の市民会館の満足度	17
図表 4.9	市民会館建替えに関するアンケート（利用者）：現在の市民会館の利用状況	17
図表 4.10	市民会館建替えに関するアンケート（利用者）：普段の練習会場	18
図表 4.11	市民会館建替えに関するアンケート（利用者、来場者）：新市民会館整備で重要なもの	20
図表 4.12	市民会館建替えに関するアンケート（利用者、来場者）：新市民会館のホール席数	21
図表 4.13	市民会館建替えに関するアンケート（利用者、来場者）：新市民会館でホール以外に必要なもの	22
図表 4.14	ワークショップ記録：現在の市民会館の意見	24
図表 4.15	ワークショップ記録：新市民会館の目指すべき方向	27
図表 4.16	ワークショップ記録：新市民会館の主要施設	28
図表 4.17	ワークショップ記録：新市民会館の施設	29
図表 4.18	ワークショップ記録：新市民会館の付属施設	30
図表 4.19	「新音楽ホール建設 嘆願書」（抜粋）	31
図表 4.20	市民意向：和歌山市民会館についての要望書（抜粋）	32

図表 4.21	市民意向：伏虎中学校跡地利用に関する要望書（抜粋）	32
図表 4.22	市民の意向のまとめ	33
図表 5.1	再整備手法の検討	36
図表 5.2	伏虎中学校跡地活用の基本的な方向	37
図表 5.3	新市民会館移設地	38
図表 5.4	新市民会館の敷地検討地	40
図表 7.1	ホール別のジャンル別の（貸館事業）公演回数の推移	46
図表 7.2	市民アンケート：市民会館を利用したきっかけ	47
図表 12.1	施設配置パターン	62
図表 12.2	主な施設のつながりと来館出入口	63
図表 12.3	敷地動線	64
図表 14.1	組織体制別のメリット、デメリット	68
図表 14.2	新たな市民会館に求められる業務	69
図表 14.3	専門の知識を持った人材の活用例	70
図表 14.4	民間活力の活用を含む事業方式	73
図表 14.5	整備スケジュール	75

「市民会館基本構想」の策定にあたって

芸術文化は、人々を感動させ、創造性を育み、表現力を養うだけでなく、多くの人の価値を共有し合い、人と人をつなぎ、多様な存在を認めあうなどの社会の熟度を高める力も持っています。また、文化の力は、地域経済を活性化させ、心豊かで活力ある社会の形成や都市の魅力づくりには欠かせない存在です。

和歌山市においても、多くの市民の参加により、市民文化まつりや和歌山市美術展覧会をはじめ様々な芸術文化活動が活発に行われています。これらの活動の中心となっているのが和歌山市民会館であり、芸術文化の拠点として市民に親しまれています。

現在の市民会館は、昭和 54 年、和歌山市七番丁（現在の市役所用地）にあった市民会館を、市制施行 90 周年事業の一つとして現在の場所に建設したもので、開館から 37 年が経過しています。老朽化が進行しているとともに、耐震性に課題を有しており、市民が安全かつ快適に利用できる施設として整備することが急務となっています。

「市民会館基本構想」は、現状の分析や市民の意見把握を行い、市民会館の基本コンセプトとそれを実現するための必要機能などについてまとめたものです。

1. 国や他の自治体の動向

芸術文化の振興を図るためには、芸術文化活動を行う者の自主性を尊重することを旨としつつ、文化芸術を国民の身近なものとし、それを尊重し大切にしよう包括的に施策を推進していくことが不可欠となります。国においては文化芸術の振興についての基本理念を明らかにしてその方向を示し、文化芸術の振興に関する施策を総合的に推進するための「文化芸術振興基本法」が平成 13 年 11 月 30 日に成立し、同年 12 月 7 日に公布・施行されました。

また、全国の自治体の多くでは、文化の拠点としての活用だけでなく、多目的な活用ができ、周辺の施設と規模や機能の差別化を図るなど、魅力あるまちづくりの拠点となるような会館が建設されています。

2. 上位関連計画

和歌山市における各種計画においては、芸術文化について「市民の芸術・文化活動を促進」「若年層に対するワークショップ、講演会などの事業の充実」「市民に質の高い文化に触れる機会を増やす」「文化団体との連携、芸術文化の情報提供と交流」といった方針が示されています。

■まち・ひと・しごと創生総合戦略

基本目標Ⅳ	文化・芸術・スポーツの振興（文化・芸術に親しめる環境づくり）
内容 主な事業	市民の文化・芸術活動を促進するとともに、日頃の活動の成果を発表するなど、文化を発信する場としての市民会館を移転新設する。

■教育振興基本計画（基本施策 9-1 文化活動の推進）

文化団体 との連携	効果的な文化的活動 ・ 様々な団体の活動内容やニーズの把握 ・ 行政と団体、各団体間で連携を深めあう仕組みの構築 ・ 情報の共有化
文化活動 への支援	文化創造の機運の醸成 ・ 様々な文化芸術活動の内容と行政に対するニーズの把握 ・ それぞれの活動に対する支援の拡充
芸術家の 育成促進	芸術を志す者を増やす ・ 若年層に対するワークショップ、講習会などの事業の拡充 ・ 市民に質の高い文化に触れる機会を増やす
市民会館の 整備・充実	充実した文化振興の拠点となる施設の建設に向けた検討 ・ 伏虎中学校跡地を移転先とする構想の検討 ・ 利用者・利用団体・市民アンケート、ワークショップ等による意見収集

■生涯学習基本計画（第2次和歌山生涯学習基本構想）

芸術文化 の普及	活動を行う者の自主性、創造性を十分に尊重しつつ、その能力が十分に発揮されるように環境整備を図る必要がある 市民が芸術を創造し、享受することができるように鑑賞や発表の機会を広く提供 するよう努める ・ 市民文化活動の支援 ・ 芸術文化事業の推進 ・ 芸術文化の情報提供と交流
-------------	---

3. 現在の市民会館

3.1. 現在の市民会館の敷地位置

現在の市民会館の敷地は、南海和歌山市駅から徒歩5分の駅近くに位置し、市堀川と道路に挟まれた台形の土地です。

住 所：和歌山市伝法橋南ノ丁7番地

敷地面積：約 9,600 m²

延べ床面積：約 18,600 m²

図表 3.1 現在の市民会館の位置



現市民会館

3.2. 施設概要

現在の市民会館には3つのホールその他、展示室等の諸室があり、それらの概要は以下のとおりです。

ホール施設は、1,406席の大ホール（リハーサル室、楽屋・ゲストルーム6室）と656席の小ホール（リハーサル室、楽屋5室）、平土間（500名収容）の市民ホールの3ホールがあります。その他主な諸室は、展示室（247.3㎡）、会議室（4室）、練習室（3室）、和室（3室）、レストランがあります。

施設内には、地下駐車場が38台分、施設に隣接した用地に市民図書館及び博物館来館者併用の駐車場が150台分あります。

図表 3.2 ホールの概要

		大ホール	小ホール	市民ホール
概要	特徴	コンサートホール、劇場として優れた音響（残響1.96）と照明空間を持つホール	演劇、舞踊、ピアノコンサートなど多様な空間と充実した舞台設備を備えたホール	ピアノ発表会、ダンスパーティ、レセプションなど平土間のホール
	ホール形式	扇型	扇型	シューボックス
	客席形式	ワンスロープ	ワンスロープ	ワンフロア
	舞台形式	プロセニウム	プロセニウム	プロセニウム
収容		1,406席	656席	500名
客席	固定席	1,243席	537席	—
	可動席	155席	111席	—
	車椅子用席	8席	8席	—
椅子		—	—	350名
机		—	—	150名
舞台	間口	18.0m	14.4m	9.0m
	奥行	12.6m	9.0m	3.6m
	高さ	9.0m	7.2m	2.7m
	オーケストラピット	有	有	—
	迫り	大、中、小	—	—
	音響反射板	有	有	—
	能舞台	—	有	—
	ピアノ	有	有	有
	映写装置	16mm、35mm	16mm、35mm	—
	ミラーボール	—	—	有
リハーサル室		219㎡	117㎡	—
楽屋		5	5	—
控室		ゲストルーム	—	1

3.3. 利用状況

3つのホールや展示室等の諸室の平成22年度から平成26年度までの利用状況について整理します。

平成26年度は、以下のとおりとなっています。

大ホール（1,406席）の稼働率は29.1%（年間利用者93,513人）であるのに対し、規模の小さな小ホール（656席）の稼働率は46.0%（年間利用者76,406人）、市民ホールの稼働率は48.7%（年間利用者18,990人）と約4～5割となっており、大ホールより多く利用されています（図表3.3）。

展示室の稼働率は63%（年間利用者17,348人）で、各諸室で最も利用されています（図表3.4）。

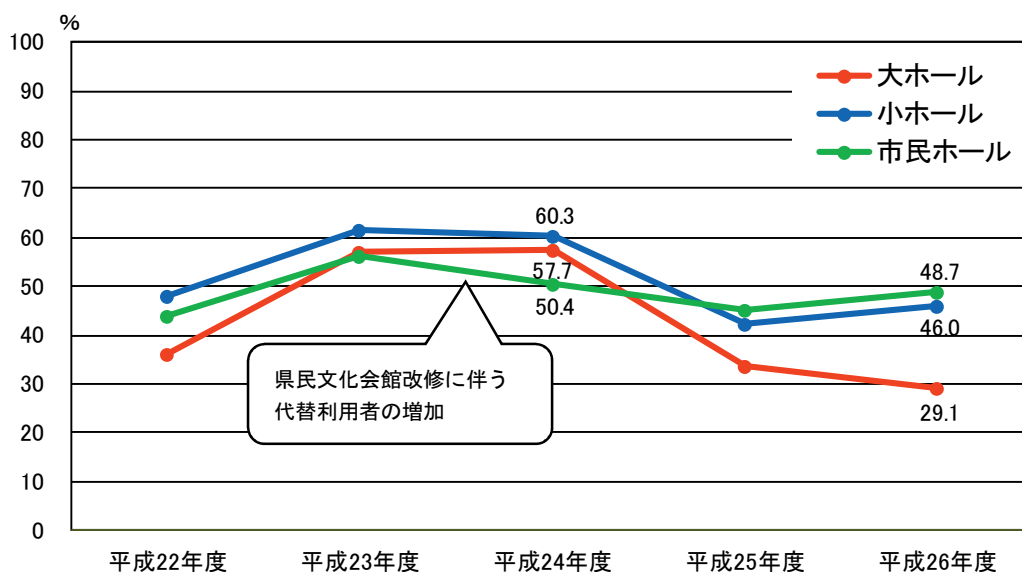
会議室は4室あり、そのうち利用料金が安価で中規模（77㎡）である第2、3会議室の稼働率が若干多く25.9%、15.0%となっています（図表3.5）。しかし、会議室の利用者は各諸室の中でも少なく、4室の合計の年間利用者は7,059人となっています。

練習室は3室あり、そのうち利用料金が安価で小規模（64㎡、68㎡）である第2、3練習室の稼働率が多く47.7%、41.0%と約4～5割の稼働率となっています（図表3.6）。3室の年間利用者の合計は21,385人と小ホールに次いで多くなっています。

和室の稼働率は、第1和室と第2,3和室で11.6%、10.6%と低く、年間利用者も1,751人となっています（図表3.7）。

これらの動向は、県民文化会館改修に伴い代替利用者の増加があった平成23年度、平成24年度を除き、平成22年度から平成26年度まで共通しています。

図表 3.3 ホールの年間稼働率の推移グラフ

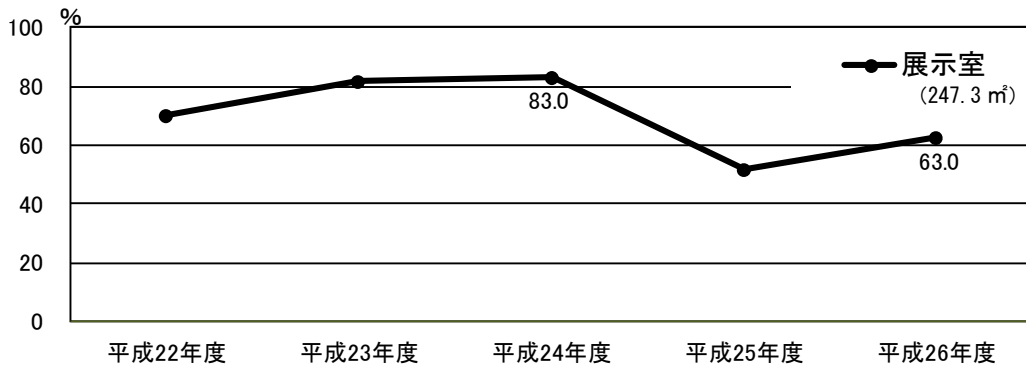


稼働率 = A (利用コマ数) ÷ B (総コマ数) × 100

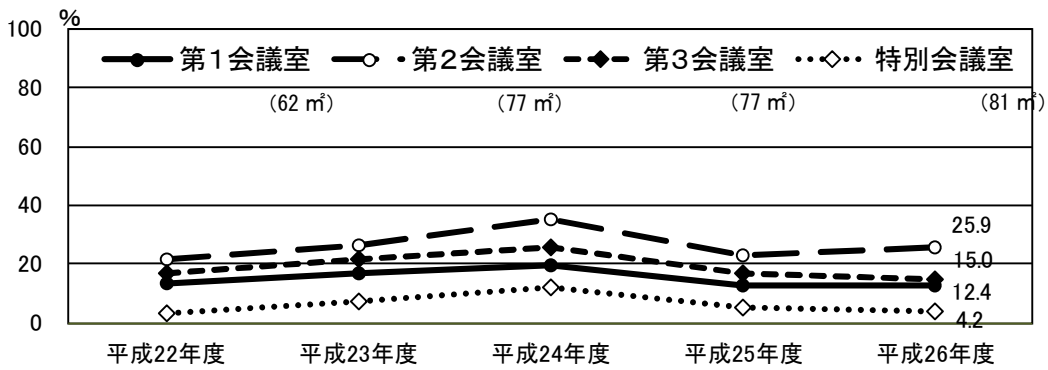
A : 利用コマ数 = 利用区分 (午前、午後、夜間) ごとの利用件数合計

B : 総コマ数 = 利用可能日数 × 3 (午前、午後、夜間)

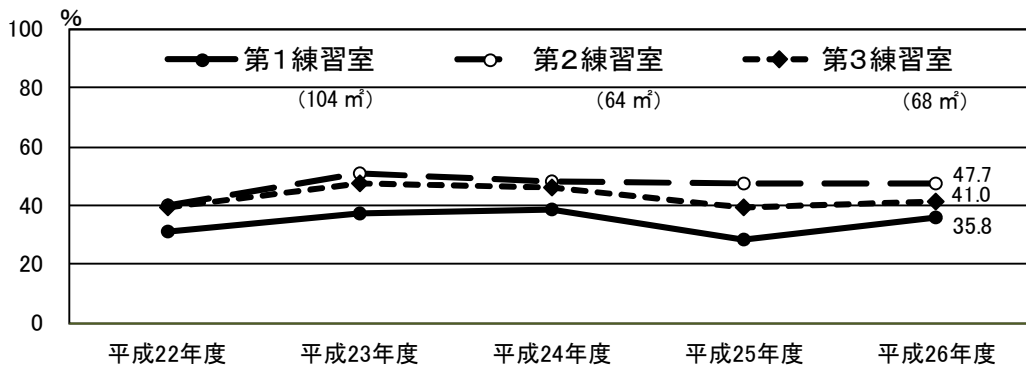
図表 3.4 展示室の年間稼働率の推移グラフ



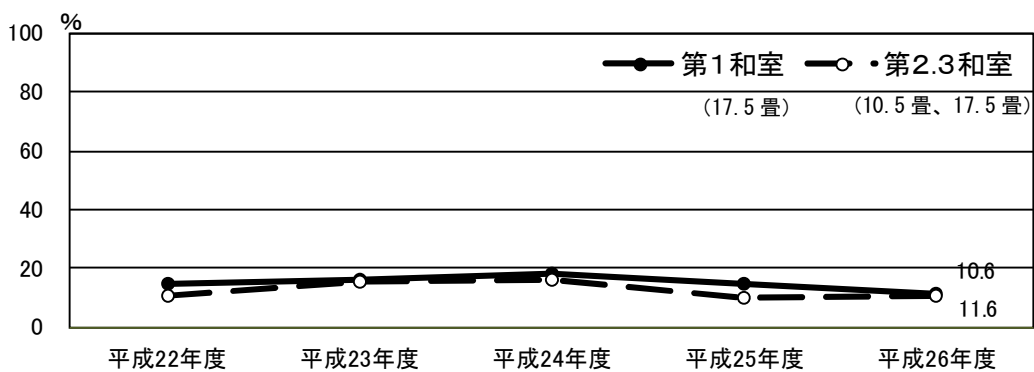
図表 3.5 会議室の年間稼働率の推移グラフ



図表 3.6 練習室の年間稼働率の推移



図表 3.7 和室の年間稼働率の推移



■ 県民文化会館との比較

和歌山県民文化会館と土日祝の稼働率を比較すると、市民会館と県民文化会館はともに稼働率が高く、特に小ホールはそれぞれ 88%と 95%をなっており、1館ではまかないきれない需要があると想定されます。

図表 3.8 市民会館・県民文化会館の「土日祝」の稼働率

		平成 24 年度	平成 25 年度	平成 26 年度
市民会館	大ホール (1,406 席)	89%	63%	74%
	小ホール (656 席)	94%	79%	88%
	市民ホール (平土間 500 名)	82%	80%	87%
県民文化会館	大ホール (2,000 席)	—	73%	81%
	小ホール (328 席)	—	90%	95%

3.4. 運営状況

和歌山市では、市民会館の管理運営について、利用サービスの向上と施設のより効果的な運営を図るため、平成 18 年度から指定管理者制度を導入しています。

現在の市民会館の指定管理者は、(公財)和歌山市文化スポーツ振興財団であり、市民会館の他、和歌の浦アート・キューブや市内のスポーツ体育施設、コミュニティセンターなどの指定管理業務も行っています。

市民会館の職員数は 11 人で、運営全体の責任者である館長 1 名、芸術に関する責任者は配置していません。これは、市・特別区 30 万人以上の 108 施設の平均職員数 17 人と比べ少ない人数となっています。

3.5. 建物状況

■耐震性

新耐震基準が導入された昭和 56 年以前に建築された現在の市民会館は、地震によって倒壊、崩壊する危険性が高く (Is 値 0.21)、安全確保のため耐震化が急務となっています。

Is 値 (構造耐震指標) とは、耐震診断により建物の耐震性能を示す指標で、国土交通省では Is 値 0.6 以上で耐震性能を満たすとされていますが、文部科学省では学校の耐震強度は Is 値 0.7 以上を保つよう求めています。

- Is 値 0.3 未満 : 大規模な地震により倒壊や崩壊の危険性が高い建物です。
- Is 値 0.3 以上 0.6 未満 : 大規模な地震により倒壊や崩壊の危険性がある建物です。
- Is 値 0.6 以上 : 大規模な地震に対して倒壊や崩壊の危険性が低い建物です。

■老朽化

劣化度調査では、耐久年数を超える設備機器が大多数を占め、現行関連法令・法規に準拠対応が困難な為、現状既存設備機器及びシステムの存続は不可能であるとの結果となっています。

築 37 年を経た施設・設備は劣化が激しく、配水管の腐食、排水管の損壊・漏水、外壁タイルの落下等、劣化箇所が増加しています。埋設された設備等を含めた大規模な設備更新が必要になっています。

図表 3.9 市民会館の設備劣化



コンクリート部分の劣化による雨漏り



排水管の損壊・漏水



配水管の腐食



経年変化によるタイルの落下

現在、市民会館は基準に適合しない既存不適格建築物となっています。改修する場合は、現行法令に基づき消防用設備の設置や駐車場の設置などの改善策が必要となります。

3.6. 現在の市民会館の課題

■市民の文化活動の実態に沿ったホール規模や機能の整備、運用が必要

現在の市民会館では、1,406席と規模の大きなホールの稼働率が低い一方で、656席の小ホールや平土間の市民ホールなど規模の小さなホールの稼働率が高くなっています。また、小ホールの土・日・祝日の稼働率は、市民会館で88%、和歌山県民文化会館で95%となっており、1館だけでは、まかないきれない需要があると想定されます。このようなことから、適正な規模のホールの整備が求められます。

ホール以外では、稼働率の高い展示室や練習室などの利用をより一層増進するとともに、稼働率の低い会議室や和室などのあり方についても検討し、適正な規模に整備することが求められます。

■市民が安全かつ快適に利用できる文化施設の整備が急務

市民の安全が約束され、快適に利用できる施設となるために、施設の耐震化や設備の改修が急務となっています。

4. 市民の意向

市民の意向は、以下の調査等を抜粋しながら整理します。

市民アンケート調査

- ・和歌山市立伏虎中学校跡地活用に関するアンケート調査（平成 27 年 7 月）

市政世論調査

- ・平成 27 年度市政世論調査（平成 27 年 10～11 月）

市民会館建替えに関するアンケート調査

- ・和歌山市民会館利用者アンケート調査（平成 27 年 4～7 月）
- ・和歌山市民会館来場者アンケート調査（平成 27 年 4～7 月）

ワークショップ

- ・伏虎中学校跡地に移転予定の新たな市民会館を考えるワークショップ
（平成 27 年 7～9 月 5 回）

市民発信の意見

- ・新音楽ホール建設嘆願書（平成 27 年 3 月）
- ・和歌山市民会館についての要望書（平成 27 年 4 月）
- ・伏虎中学校跡地利用に関する要望書（平成 27 年 8 月）

4.1. 市民アンケート調査

「和歌山市立伏虎中学校跡地活用に関するアンケート調査」の結果から市民の意向を整理します。

調査名：和歌山市立伏虎中学校跡地活用に関するアンケート調査

調査日：平成 27 年 7 月

調査対象：15 歳以上の市民に郵送アンケート

回収率：回答数 870 件 / 2,000 件（43.5%）

調査内容：伏虎中学校周辺の来訪動向、現在の市民会館の利用動向、
新しい市民会館の建設について、伏虎中学校跡地利用について

4.1.1. 現在の市民会館について

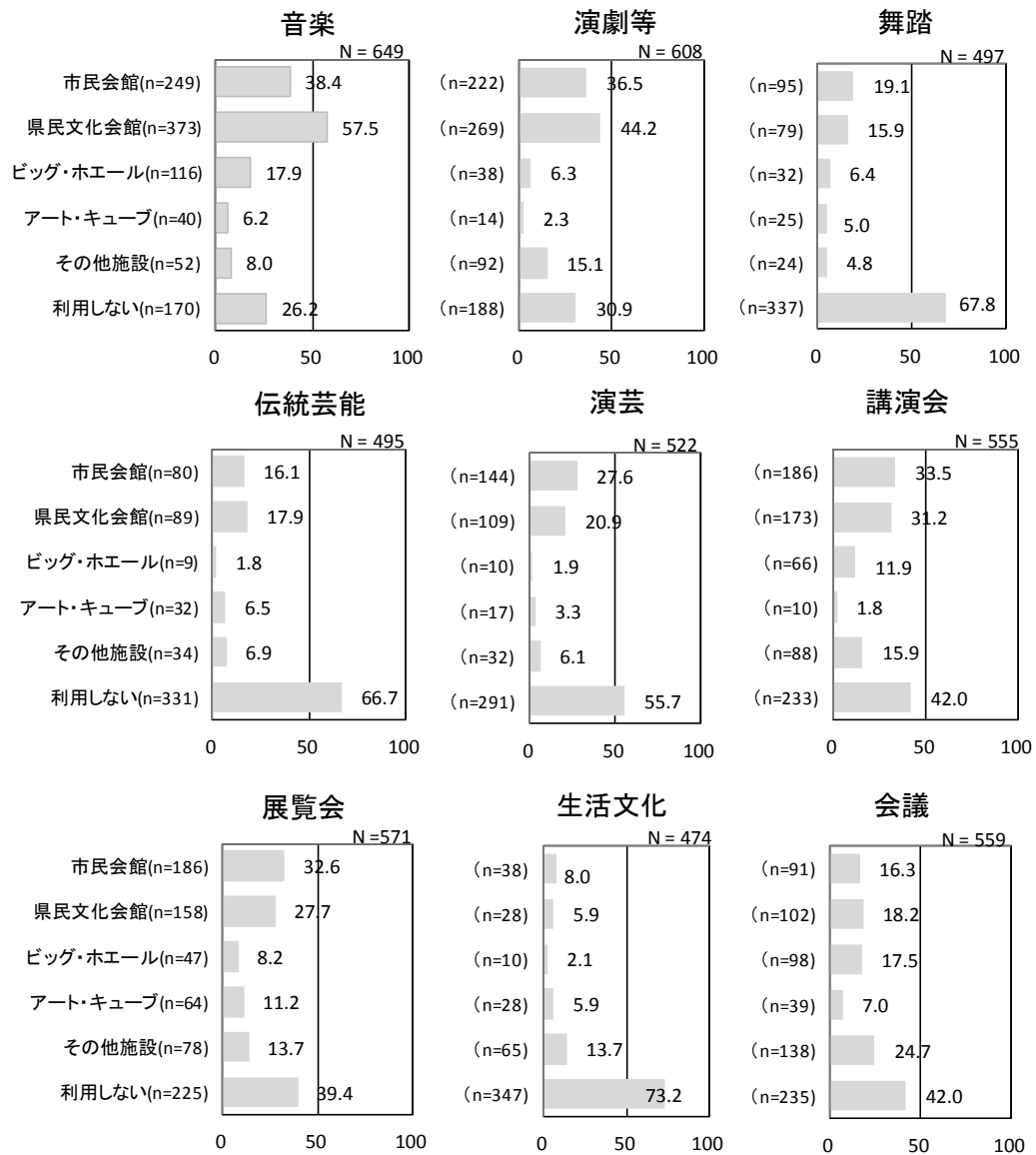
調査の結果から、現在の市民会館の利用実態を把握します。

- 「音楽」「演劇等」「講演会」「展覧会」は市民会館、県民文化会館を多く利用
- 「音楽」「演劇等」は、県民文化会館の利用者が若干多い

市内で開催される「音楽」「演劇等」「講演会」「展覧会」では、約3割の人が市民会館と県民文化会館を利用しています。

図表 4.1 市民アンケート：文化活動別の市内の施設利用状況

文化活動・イベントでどんな施設を利用しますか。(複数回答)



4.1.2. 新たな市民会館について

調査の結果から、新たな市民会館に望まれている機能や施設を把握します。

- **新市民会館に必要なものは「駐車場」「バリアフリー」「鑑賞しやすい座席」「飲食・喫茶機能」が多い**
- **メインホールは「多目的」「1,000席以上」が多く、サブホールも「多目的」が多い**

新市民会館で重要なものは、「駐車場」66.5%と最も多く、続いて「バリアフリー」52.1%、「鑑賞しやすい座席」50.4%、「飲食・喫茶機能」47.0%となっており、利便性を向上する機能についての回答が多くなっています（図表 4.2）。

メインホールは、「多目的」60.6%と多くを占め、「音楽専用」22.9%や「演劇等専用」5.2%など専門性のあるホールを求める回答は少なくなっています（図表 4.3 上）。

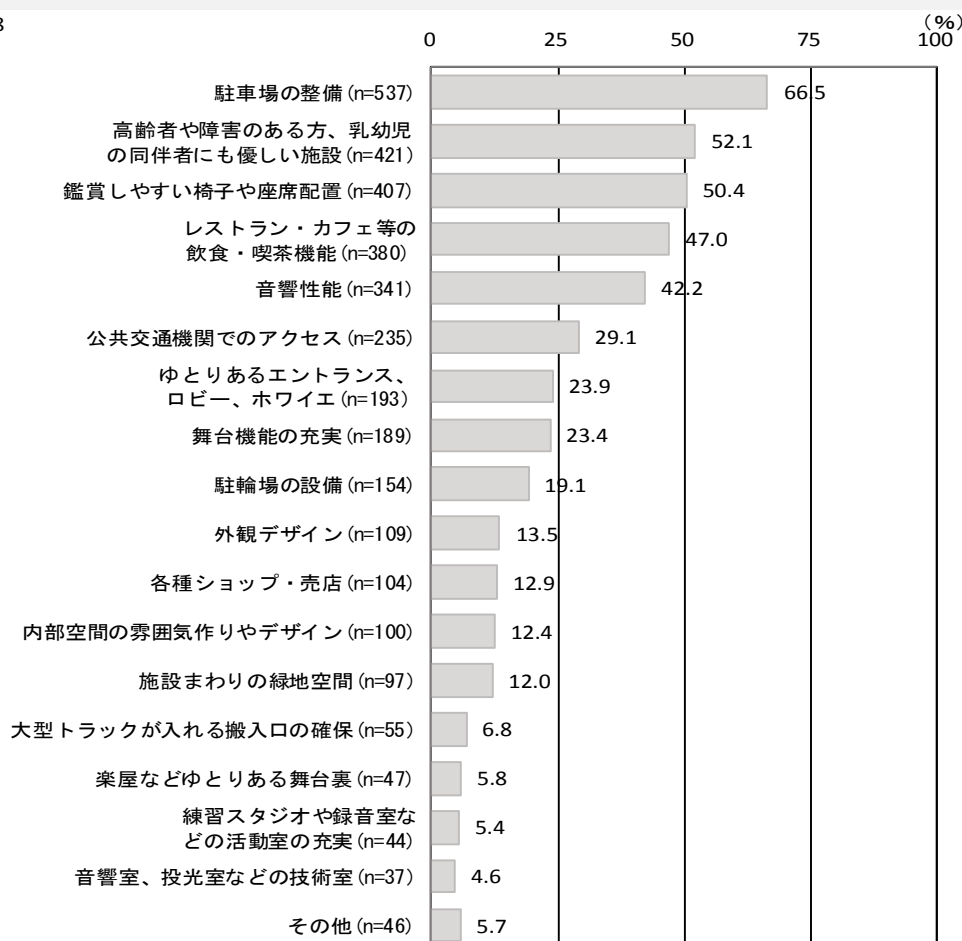
メインホールの席数では、「1,000席以上」の大きな規模を求める回答が60.0%と最も多く、次いで「800～1,000席」28.9%となっています（図表 4.3 下）。

メインホール以外では、「多目的スペース」を求める意見が多く55.3%を占めています（図表 4.4 上）。次いで「市民ホール」が望まれており、タイプでは「多目的」が63.3%と多く、用途では「発表会」や「コンサート」といった意見が多くなっています（図表 4.4 下）。

図表 4.2 市民アンケート：新市民会館に重要なもの

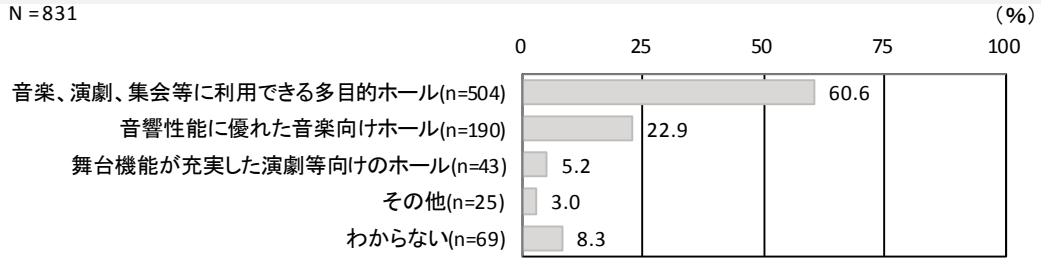
新しい市民会館に特に重要だと思われる項目は何ですか（5つまで複数回答）

N = 808

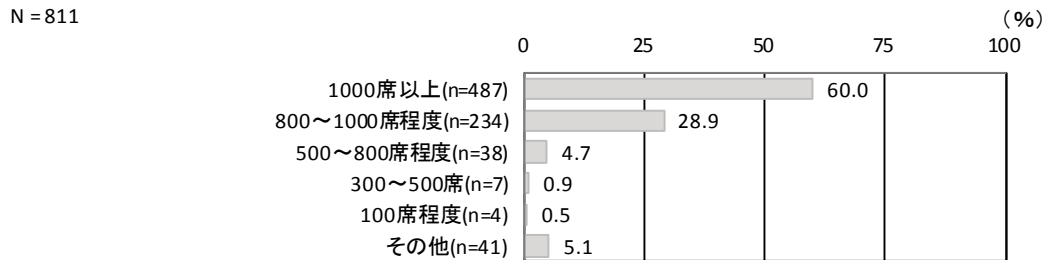


図表 4.3 市民アンケート：新市民会館のメインホール

メインホールとして望ましいと思うタイプはどのようなものですか。(単一回答)

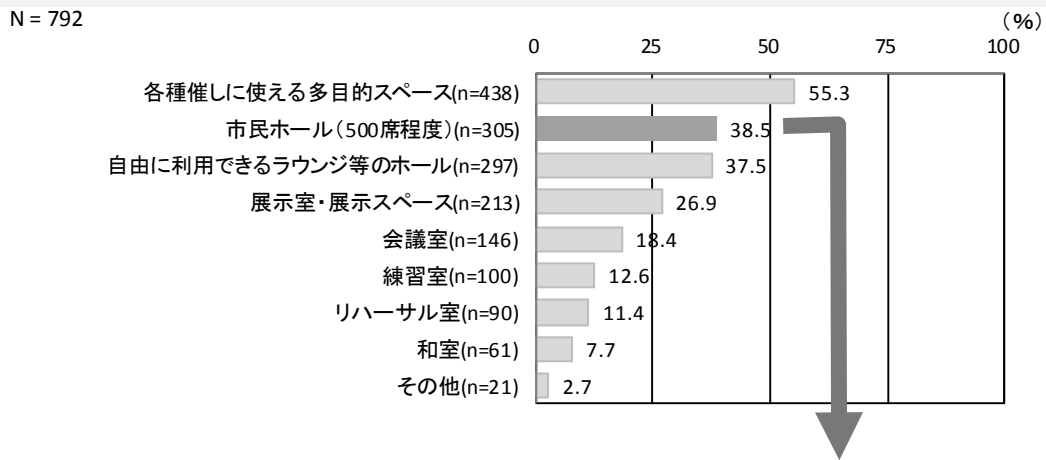


メインホールの席数については、どの程度がよいと思われますか。(単一回答)

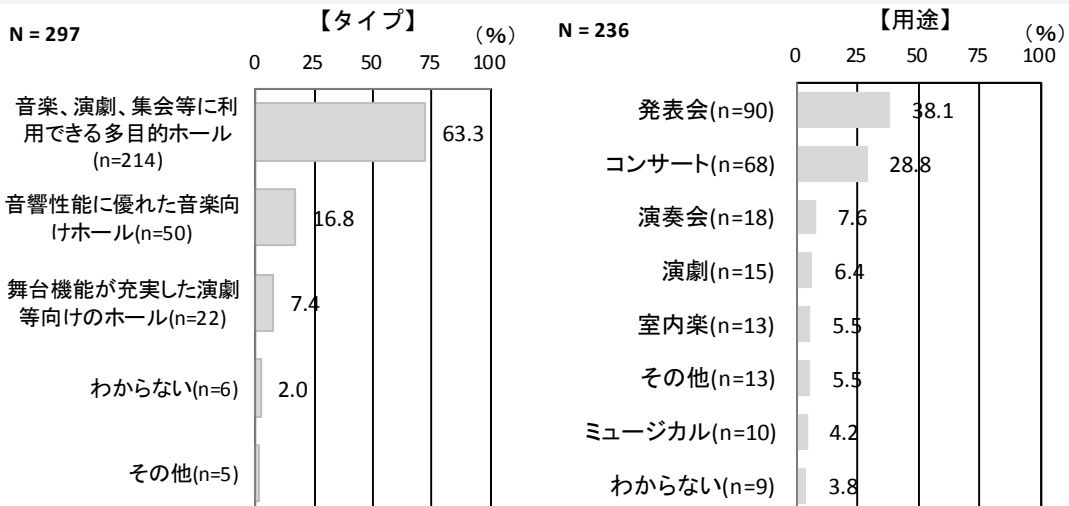


図表 4.4 市民アンケート：新市民会館のメインホール以外の施設

メインホール以外の施設について、必要と思われるものは何ですか。(複数回答)



市民ホールに望ましいと思う【タイプ】や【用途】はどのようなものですか。(単一回答)



4.2. 市政世論調査

「平成 27 年度市政世論調査」より、市民会館に関する部分を抜粋して整理します。

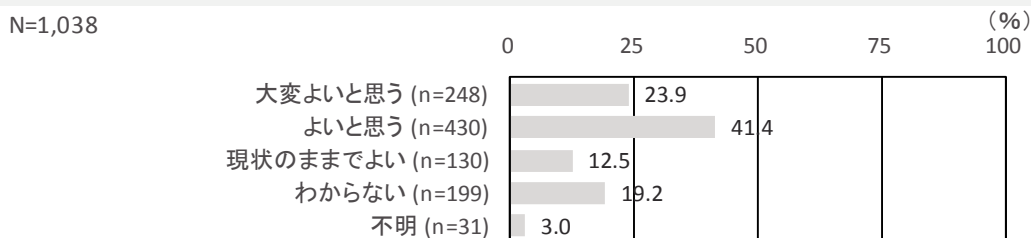
- **6 割以上が市民会館の移設に賛成**
- **市民ホールは多目的なものが求められている**
- **「駐車場」「バリアフリー」「飲食・喫茶機能」「鑑賞しやすい座席」を求められている**

伏虎中学校跡地に新しい市民会館を移設することについて、「大変よい」23.9%、「よいと思う」41.4%で約 6 割以上が市民会館の移設に賛成しています（図表 4.5）。市民ホールについては「音楽、演劇、集会等に利用できる多目的ホール」66.1%と最も多い意見となっています（図表 4.6）。

新しい市民会館に求められている設備は、「駐車場」が多く 48.2%を占めています。「高齢者や障害のある方、乳幼児を同伴された方にも優しい施設」「鑑賞しやすい椅子や座席配置」「レストラン・カフェ等の飲食・喫茶機能」など、より多くの人利用しやすくなるような設備を求める意見が多くなっています（図表 4.7）。

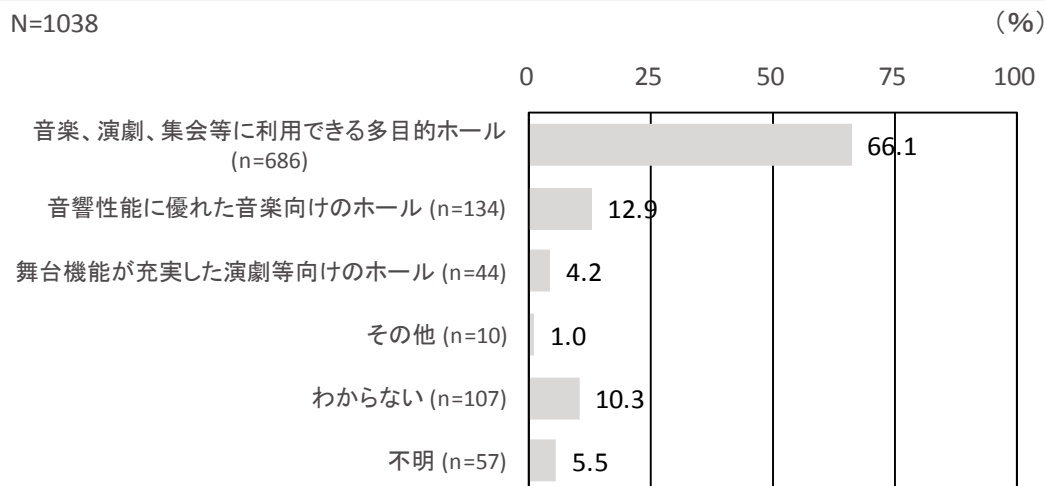
図表 4.5 市政世論調査：市民会館の移設について

伏虎中学校跡地に新しい市民会館を移設することについて、どのように思いますか。（単一回答）



図表 4.6 市政世論調査：新市民会館の市民ホールについて

市民ホールについて、望ましいと思うタイプはどのようなものですが。（単一回答）

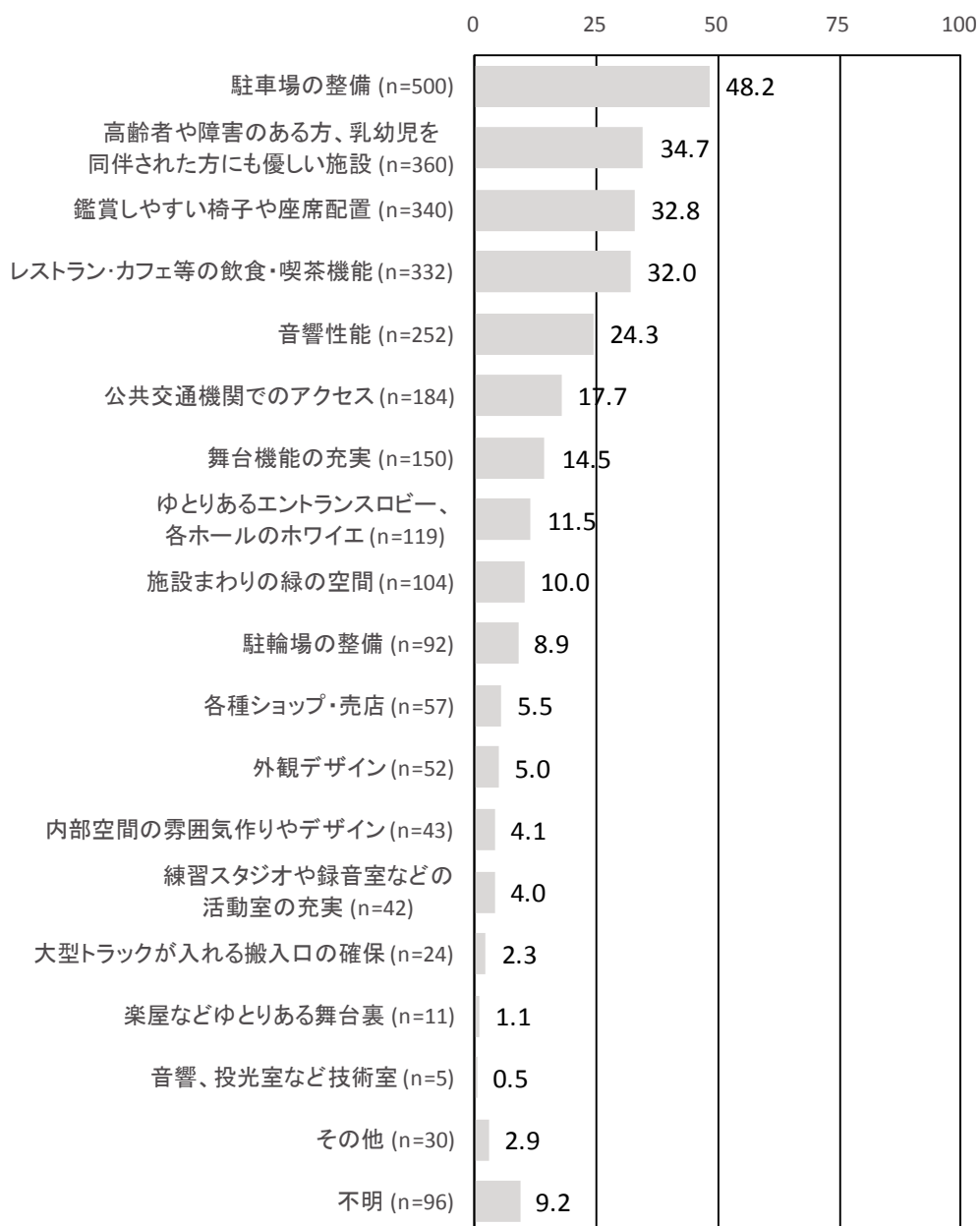


図表 4.7 市政世論調査：新市民会館に必要な設備について

新しい市民会館を建設する場合、どのような設備を望みますか。(複数回答)

N=1,038

(%)



4.3. 市民会館建替えに関するアンケート調査

「和歌山市民会館利用者アンケート調査」及び「和歌山市民会館来場者アンケート調査」の結果から利用者や来場者の意見を整理します。

調査名：「和歌山市民会館利用者アンケート調査」
調査日：平成27年4～7月
調査対象：市民会館を利用した個人や団体
回収率：回答数61名
調査内容：利用した施設、現在の市民会館、新しい市民会館について

調査名：「和歌山市民会館来場者アンケート調査」
調査日：平成27年4～7月
調査対象：市民会館の来場者
回収率：回答数1,234名
調査内容：新しい市民会館について

4.3.1. 現在の市民会館について

「和歌山市民会館利用者アンケート調査」から、現在の市民会館の利用実態を把握します。

- 総合的な現在の市民会館の満足度は、満足・やや満足・普通が85.7%
- 利用状況を機能別に確認すると、小ホール、練習室の割合が高い
- ホールの公演コマ来場者は300～800名が最も多い
- 練習はほとんどが市民会館以外を利用し、その多くがコミュニティセンターを利用

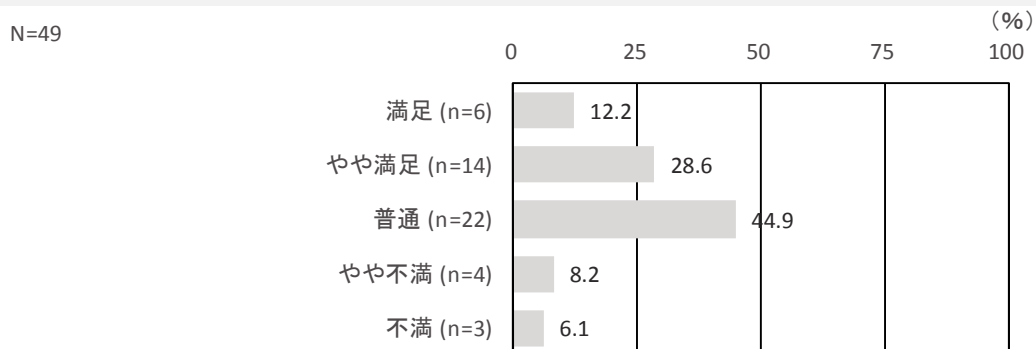
総合的な現在の市民会館の満足度は、満足・やや満足が40.8%、普通が44.9%を占めて、多くの方が不満を感じていません（図表4.8）。

小ホール、練習室を利用する利用者・団体が多く、続いて大ホール、会議室となっています（図表4.9上）。

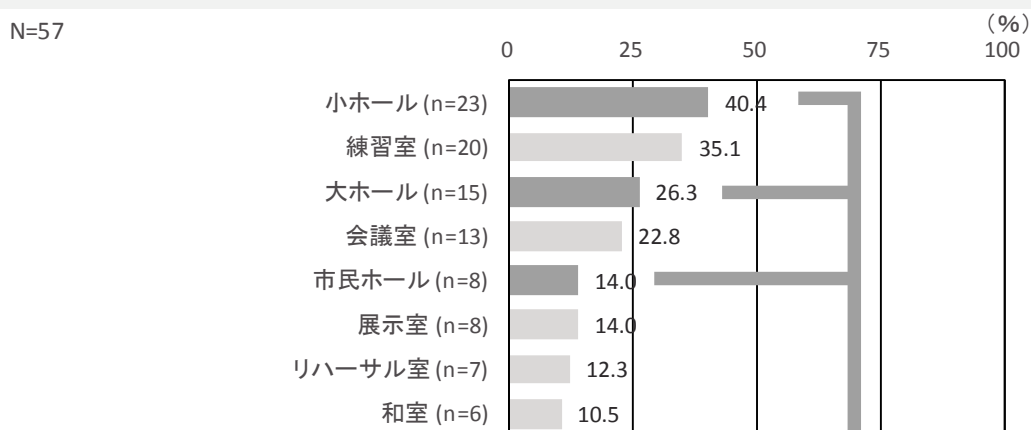
大ホール、小ホール、市民ホールの来場者数は「500名以上、800名未満」26.8%、「300名以上、500名未満」22.0%であり、2つの区分を足した300名以上、800名未満は、48.8%で約半数を占めています。（図表4.9下）

練習会場では75.6%が市民会館以外を利用し、その多くがコミュニティセンターを利用しています（図表4.10）。

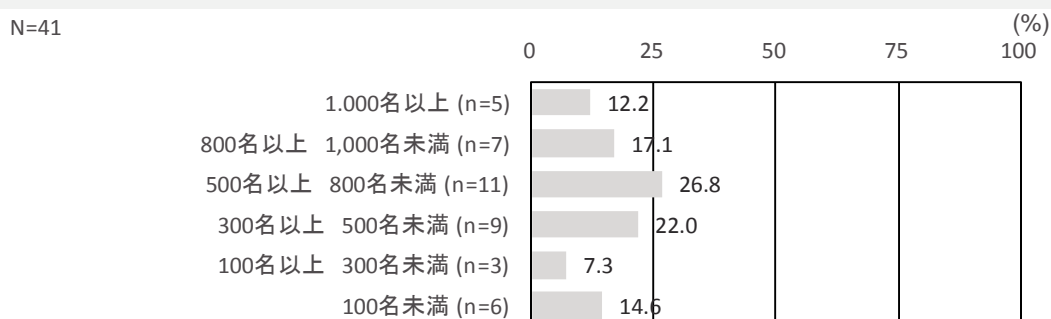
図表 4.8 市民会館建替えに関するアンケート（利用者）：現在の市民会館の満足度
施設の規模、設備内容、利用料金など総合的な観点から、現在の市民会館について満足度をお聞かせ
ください。（単一回答）



図表 4.9 市民会館建替えに関するアンケート（利用者）：現在の市民会館の利用状況
どの施設をご利用になりましたか。（複数回答）

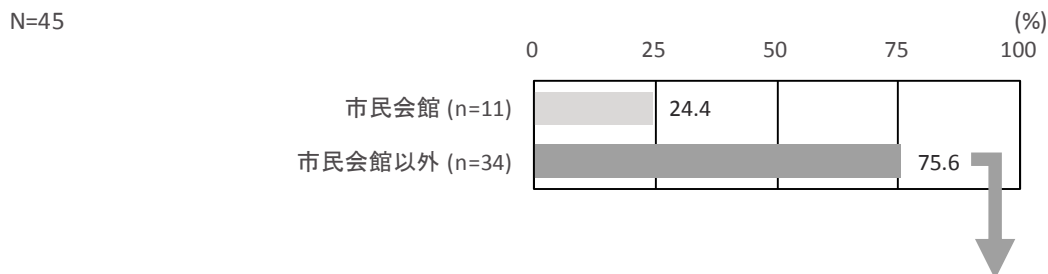


大ホール、小ホール、市民ホールを利用した団体の来場者の人数はどれくらいでしたか。（単一回答）

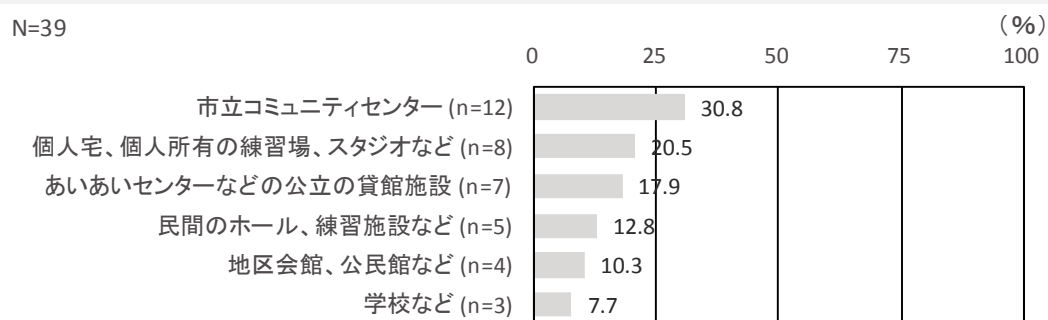


図表 4.10 市民会館建替えに関するアンケート（利用者）：普段の練習会場

平素どこで練習されていますか。（単一回答）



市民会館以外の練習会場は。（記述回答）



4.3.2. 新たな市民会館について

「和歌山市民会館利用者アンケート調査」及び「和歌山市民会館来場者アンケート調査」から、新たな市民会館に望まれている機能や施設を把握します。

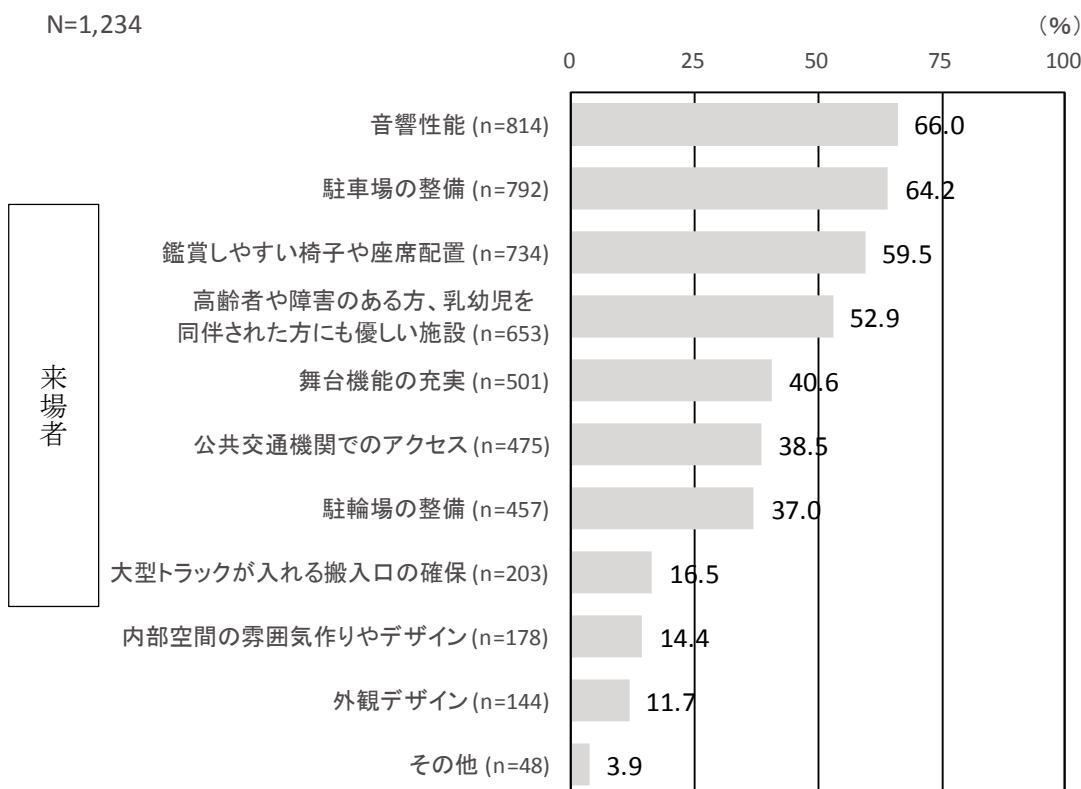
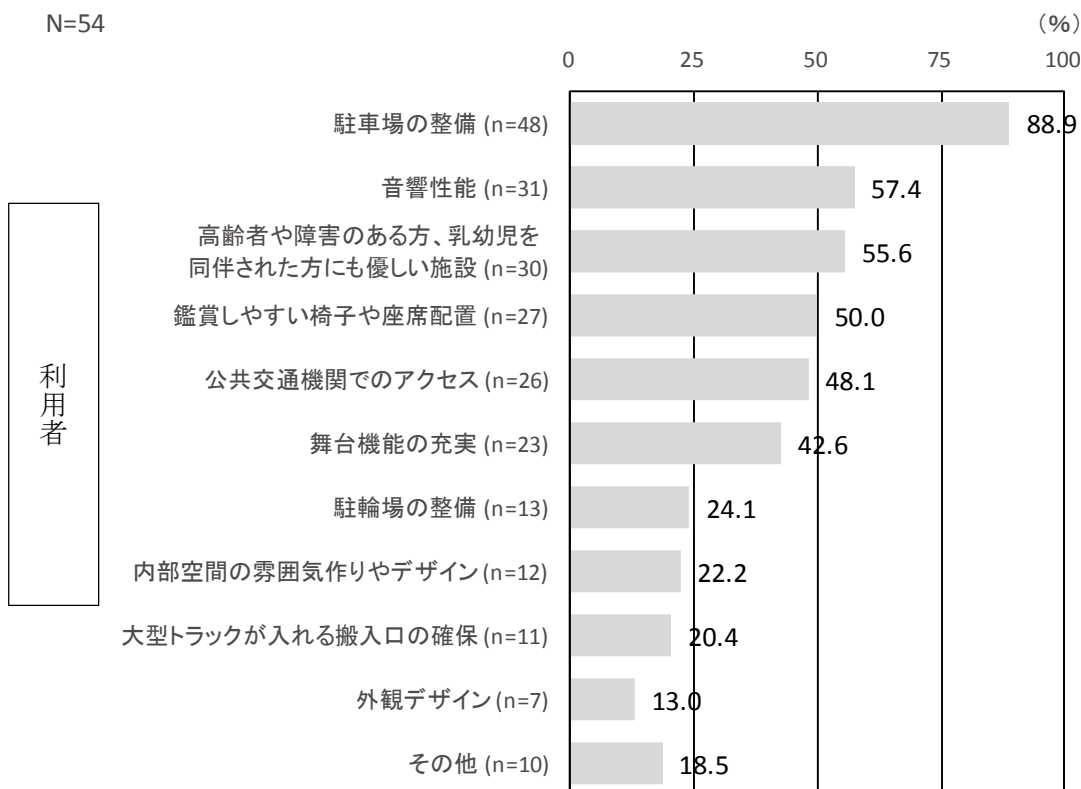
- **建設で重要なものは「駐車場の整備」「音響性能」「あらゆる人に優しい施設」「鑑賞しやすい座席」が多い**
- **ホールの席数は「800～1000席」が多い**
- **メインホール以外に必要なものは「飲食施設」が最も多い**

建設で重要なものは、利用者の意見では「駐車場の整備」が突出して多く 88.9%を占め、続く 2 位以降は 5 割台で「音響性能」57.4%、「あらゆる人に優しい施設」55.6%、「鑑賞しやすい座席」50.0%が続いています（図表 4.11 上）。一方、来場者の意見では、「音響性能」66.0%で多く、「駐車場の整備」64.2%「鑑賞しやすい座席」59.5%、「あらゆる人に優しい施設」52.9%と続き、利用者の意見の上位 4 位と同じ項目になっています（図表 4.11 下）。

望ましいホールの席数は、利用者、来場者ともに「800～1000席」が多くそれぞれ 36.2%、40.8%と約 4 割を占めています（図表 4.12）。続く 2 位についても利用者、来場者ともに「1,000席以上」で、それぞれ 23.4%、32.4%となっています。利用者だけを見ると、3 位の「500～800席」も 21.3%で僅差となっており、結果として「800～1000席」以外は、意見は分散しています。

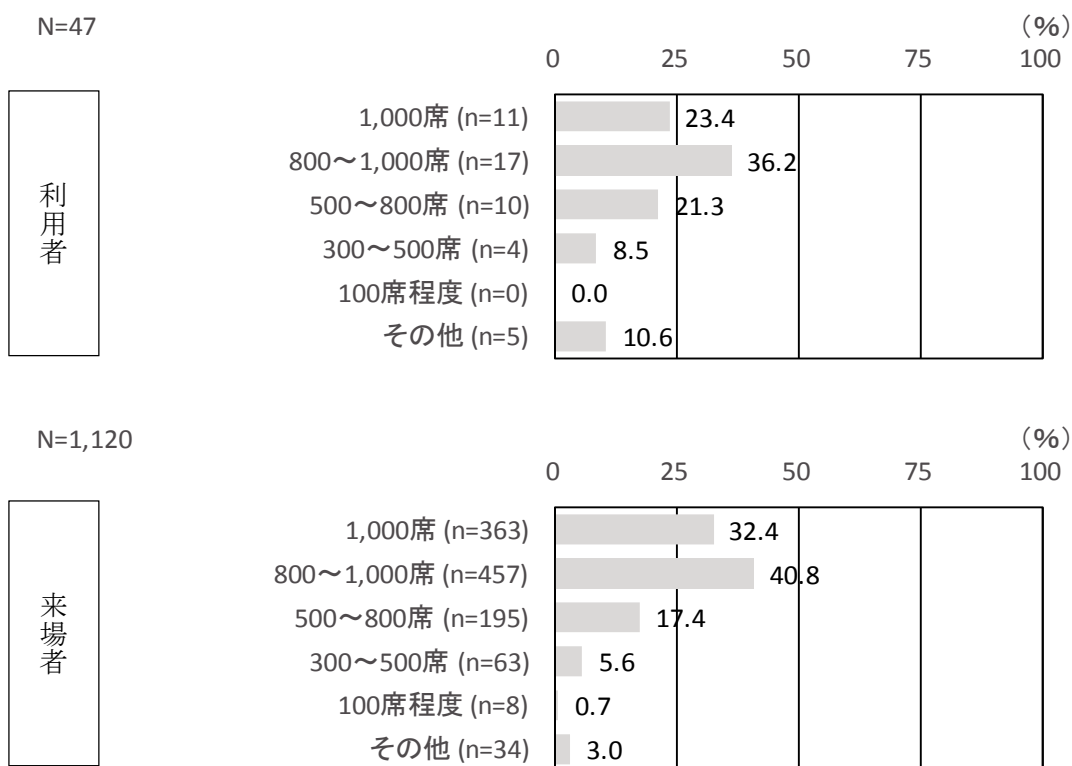
メインホール以外に必要なものは、利用者、来場者ともに「レストラン・カフェ等の飲食施設」が多くそれぞれ 74.1%、60.0%となっています（図表 4.13）。2 位以降は、利用者では「市民ホール（500席程度）」「練習室」「会議室」「コンビニエンスストア・売店等」などの施設を必要とする意見が多く、来場者では「各種催しに使える多目的スペース」「市民ホール（500席程度）」「展示室・展示スペース」などが多くなっています。

図表 4.11 市民会館建替えに関するアンケート（利用者、来場者）：新市民会館整備で重要なもの
建設にあたり、特に重要だと思われる項目は何ですか。（複数回答）



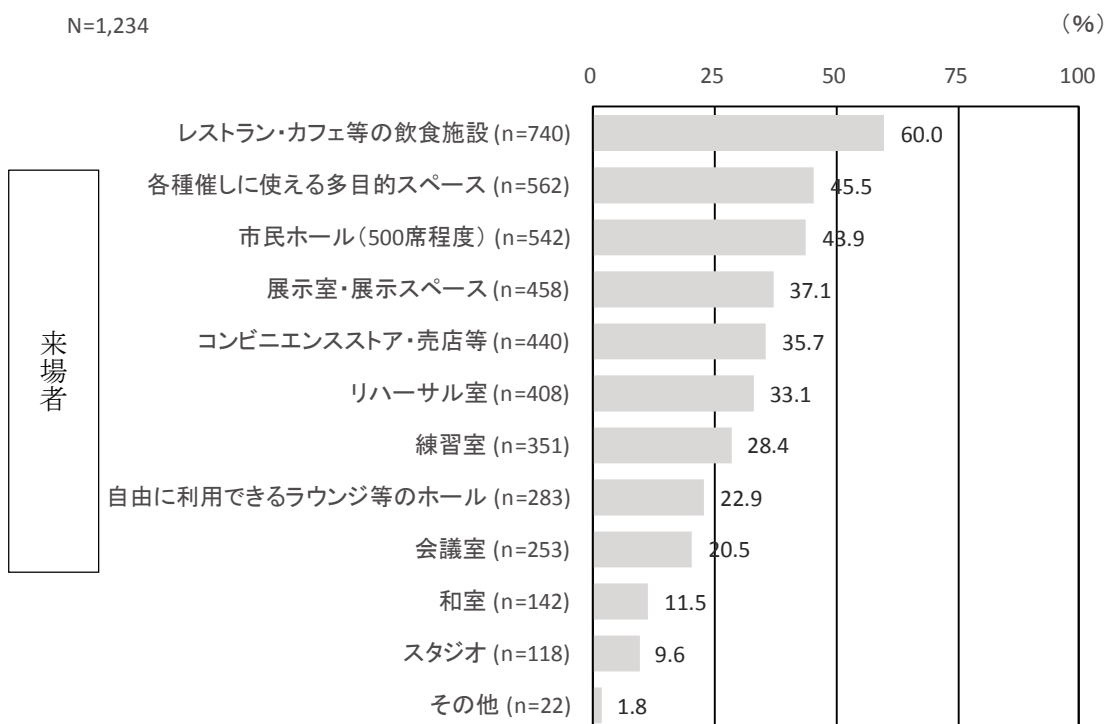
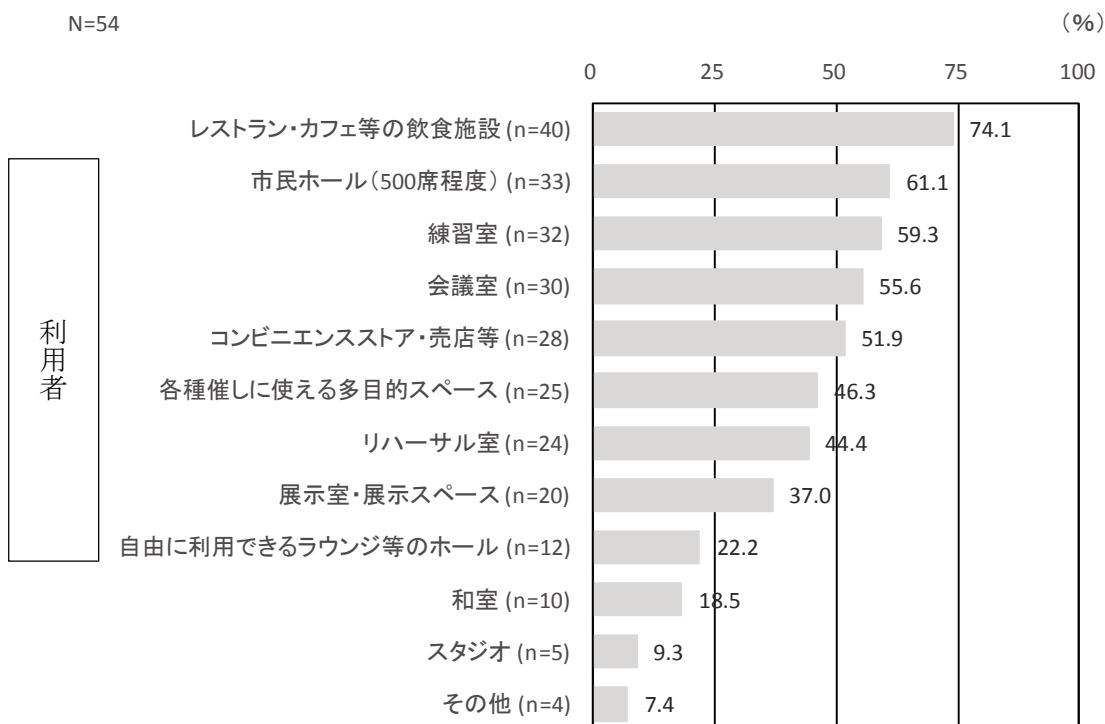
図表 4.12 市民会館建替えに関するアンケート（利用者、来場者）：新市民会館のホール席数

ホールの席数については、どの程度がよいと思われますか。（単一回答）



図表 4.13 市民会館建替えに関するアンケート（利用者、来場者）：新市民会館でホール以外に必要なもの

ホール以外の施設について、必要と思われるものは何ですか。（複数回答）



4.4. ワークショップ

「伏虎中学校跡地に移転予定の新たな市民会館を考えるワークショップ」として、平成27年7～9月に5回にわたり開催したワークショップの概要を示します。

参加者

市民会館利用団体、観光・福祉・建築等の各種団体、自治会、障がい者、高校生など

開催日程とテーマ

第1回 平成27年7月31日（市民会館市民ホール）

「現在の市民会館の問題・課題、新たな市民会館とは・・・」

第2回 平成27年8月10日（市役所14階会議室）

「中心市街地に移る市民会館には、こんな機能・大きさが必要！」

第3回 平成27年8月27日（市民会館第1練習室）

「伏虎中学校跡地に建つ市民会館は、どんな形、どんな配置・・・」

第4回 平成27年9月8日（市民会館第1練習室）

「市民会館をどう使い、何を実現したいですか」

第5回 平成27年9月18日（市民会館第1練習室）

「市民会館でどうしても実現したいこと！！」

4.4.1. 現在の市民会館について

ワークショップから、現在の市民会館の利用実態を把握します。

- | | |
|-------------|--|
| ○ 施設 | 好評：ゆとりあるロビー・ホワイエ／利用しやすい規模
不評：駐車場が不便／動線が複雑／老朽化／トイレが不便 |
| ○ 運営 | 好評：誰もが多目的で利用しやすい／料金が安い
不評：施設案内が少ない／情報発信が少ない／専門スタッフが不在 |
| ○ 立地 | 好評：駅に近い／前庭の緑地
不評：敷地周辺との連携がない／周辺にくつろげる場所がない |

施設の良いところは、ゆとりあるロビー・ホワイエや利用しやすい規模といった意見が多く、悪いところでは、図書館、博物館の3館併用駐車場の駐車台数が少ないことや出庫時に渋滞すること、入口が2階にあり動線が複雑となっていること、老朽化、トイレが不便といった評価となっています（図表 4.14 表上段）。

運営については、誰もが多目的で利用しやすい、料金が安いところを良いところとし、悪いところとしては、施設案内が少ない、情報発信が少ない、専門スタッフが不在といった点があげられています（図表 4.14 表中段）。

施設の立地条件として、駅近で交通の便利が良いことや前庭の緑地が立派に育っている点を良いところとしてあげる意見が多くありました（図表 4.14 表中段）。一方で、敷地周辺の商業施設等との連携がない、周辺にくつろげる場所がないという意見がありました。

図表 4.14 ワークショップ記録：現在の市民会館の意見

	良いところ	悪いところ
施設・設備	<p>○建物 ロビーが大きく美しい／美しく誇らしい建物／ゆったりとした空間／「素晴らしいホール」と客演の方々がほめてくれる／市民会館として独立した建物</p> <p>○ホール 3つの多様なホール 【大ホール】 <u>利用しやすい規模</u>／音響効果 【小ホール】 <u>利用しやすい規模</u></p> <p>○施設・設備 部屋数が多い／充実した施設 【楽 屋】 楽屋、リハーサル室は満足 【展 示】 利用しやすい</p>	<p>○駐車場 <u>少ない</u>／使いづらい／狭い／図書館との複合利用で不便／団体バスのスペースがない／出庫に時間がかかる／駐輪場が不足</p> <p>○ホール 音楽ホールがない／座席の間隔が狭い／バックヤードが狭い／県民文化会館とだぶっている／ホールの動線が悪い／アッパダウンが多い／出口が混雑 【大ホール】 声が届かないポケットがある／クラシック向け音響がよくない</p> <p>○施設・設備 老朽化／雨漏り／トイレが少ない／洋式トイレがない／車いすの出入り口が一般と区別／搬入口は大型車を横付けするのが大変／倉庫が狭く使いづらい／空調が効きすぎる／ロビーが暗い／外から中が見えない 【楽 屋】 少ない／狭い 【展 示】 搬入場所がない 【練習室】 部屋が少ない！安くて広い練習スペース 【会議室】 部屋が少ない</p>
運営・利用	<p>○利用 誰もが多目的に利用しやすい／いろいろな団体が使える／学校の校外授業などに使用</p> <p>○スタッフ スタッフの対応</p> <p>○利用料・利用時間 利用料が安い</p>	<p>○利用 一般利用（プレイヤー以外）が使用しづらい／予約するのに1年前からでは長すぎる／施設案内がない／緊急の時の案内（障がい者用等）がない</p> <p>○企画 情報発信していない／独自の魅力的な企画が少ない／若い人が集まる催し物が少ない</p> <p>○スタッフ コーディネーターや専門スタッフが不在</p> <p>○利用料・利用時間 延長料金等のオプション料金が安い／利用時間の制約／駐車場料金が安い</p>
その他	<p>○交通 <u>駅に近く交通が便利</u>／場所がよい</p> <p>○外構 前庭の緑地</p>	<p>○交通 市民ホールまでの交通案内が不足／街中（中心市街地）から離れている</p> <p>○外構 周辺との一体感がない／川沿いとして水辺利用がない／広場が使いにくい</p> <p>○その他の利用 利用者以外は来ない施設／周辺にくつろげるところがない／！カフェとかで学生も利用しやすく／！市民が散歩しながら歩けるルート</p>

※下線は各グループで共通して話題となったもの
！は悪いところの改善案

4.4.2. 新たな市民会館について

ワークショップから、新たな市民会館に望まれている機能や施設について概要を把握します。

ソフト面

- 全市的な文化振興の方針、各施設の役割分担が必要
- 運営には、市民や団体が関われる仕組みや専門スタッフの配置が必要
- 文化振興のため人材発掘・育成が必要
- 所用や目的のない人も立ち寄れる施設

ハード面

- 誰もが使いやすい施設、設備の整備
- 最新機能を搭載した施設、設備の整備
- 大きさ重さに対応した搬入、ストック機能
- お城を活かした施設、設備の整備
- 駐車場の確保、公共交通の確保
- 市民会館に付属する機能は観光、飲食、物販、交流、広場、周辺との連携

ソフト面（図表 4.15）

ソフト面では、和歌山市の文化芸術振興に関する中長期的なビジョン・基本方針が必要といった意見や、運営は小さな団体や市民も参画できる組織をつくり、市民が関わっていける仕組みが求められるといった意見がありました。

人材としては、市民会館では技術的ノウハウのある専門スタッフなどふさわしい人材配置が必要といった意見や、芸術文化に関わる若い人材を積極的に発掘・育成することが求められるとの意見がありました。

また、中心市街地に位置する条件から、和歌山城への来訪者や、市民会館に直接所用や目的のない人でも気楽に立ち寄れるような工夫が必要との意見がありました。

ハード面（図表 4.16、図表 4.17、図表 4.18）

メインホールでは、県民文化会館と競合しない規模として、800～1,000 席の音楽性能を重視したホール、演劇にも対応できる多目的ホール、座席はゆとりがありすわり心地のよいもの、障がい者に配慮した音声解説システム、舞台と同規模のリハーサル室といった意見がありました。

サブホールでは、客席は 500 席程度でメインホール同様、音楽や演劇に対応できるホールとの意見がありました。また、映像や字幕が映せる壁・反響板や LED 等の最新設備、国際会議ができるコンベンション設備、幼児観覧室（授乳室）の整備が必要との意見がありました。

その他の諸室として、展示室は常設スペース、可動パネルを備え、市美術展覧会の開催に対応できるもの、美術館の機能を果たせるもの、各団体の成果発表ができるものなどといった機能を求める意見がありました。搬出入では、6～11トントラックへの対応、大きいもの・重いものの搬出入の工夫、大型エレベーターが必要との意見がありました。練習室では、ピアノの配備、防音、レコーディング室、夜遅くまで利用ができるといった意見がありました。

施設案内では、わかりやすい案内表示、音声案内、磁気誘導ループ等が必要といった意見があり、トイレでは、女性ブースを多く、化粧スペースの確保、多目的トイレの設置などの意見がありました。

ロビーについては、気軽に訪れた市民や観光客がくつろげるスペースとして、お城を眺めるラウンジや喫茶コーナーが欲しいとの意見がありました。

また、駐車場では周辺駐車場と連携するなど駐車台数を確保する、閉演時に集中する出庫車のスムーズな処理についての意見が多くありました。

市民会館に付属する施設としては、観光機能（テラス、みやげ物販売、城郭鑑賞スポット）やホールの営業時間にかかわらず利用できる飲食機能（レストラン、カフェ）、物販機能（各種ショップ、本屋、花屋、マーケット、コンビニ）、交流機能（フリースペース、ランニングステーション、レンタサイクル）や、広場（芝生、木陰ベンチ、噴水、幼児スペース、ステージ）の配置、周辺施設との連携（和歌山城やロイネットホテルとの連続性）が必要といった様々な意見がありました。

図表 4.15 ワークショップ記録：新市民会館の目指すべき方向

	目指すべき方向
まちづくりに寄与し周辺と調和する施設	<ul style="list-style-type: none"> ・ ホール以外の施設も充実した施設、駐車場から施設までまちづくりを考えた周辺づくり ・ 城下町の趣を活かした市民が自慢したくなる様な機能を持った施設 ・ 都市空間のある市民に親しまれる建物にしてほしい ・ にぎわい創出、和歌山市元気復活の為に、和歌山城に続く第2のラウンドマークの建設を ・ いろいろなお店があり、人々が集まるところ（兵庫県立文化センター） ・ 目的外の人でも来れる施設（通りがかりの人が木陰を利用） ・ 隣に和歌山県立医科大学薬学部を置き、連絡通路で結ぶ。会館はコンパクトに内部充実に ・ 広いオープンスペースがあり、ぶらくりイベントとの連携など、屋外ステージ（野外ホール）や広場を庭にもつホール ・ 大学と併設されるなら景観的に一体感を ・ 外部が緑に覆われている様にしてほしい（建物が主張しない）。建物を出ても余韻にひたれる空間に ・ 市民がアクセスしやすいように ・ 新しい市民会館には市立美術館が必要と思う
新しい市民会館の機能・性能	<ul style="list-style-type: none"> ・ 座席の間隔を広く、座席に傾斜をつける ・ 常に市民が集える市民会館 ・ 音楽ホール ・ 700～900人収容の音楽専用ホール ・ 上質の音のホール（800人程度のシューボックス型） ・ 中ホール（800～1000席） ・ 屋根付き駐車場（とくに障がい者用） ・ ホール関係の充実（便利な搬入口／多機能な設備、とくに音） ・ 室内からみる城の景観（北堀側のやぐらの復元） ・ 聴覚障がい者、字幕で内容がわかる設備 ・ 内容の充実した、子ども達も大きくなって、誇りに思うホールを建設していただきたい。少なくとも、大・小を備えたホールを、1つではダメ ・ 能舞台、楽屋が配置されている ・ 座席が広く安定した特別席などを設置してほしい ・ 太陽光が入るもっと明るい市民会館に ・ 新しい技術ですばらしい会館を希望 ・ 十分なエントランス、ゆとりのある空間づくり
新しい市民会館の運営利用	<ul style="list-style-type: none"> ・ 新ミュージアムとした場合、その運営について和歌山市美術家協会を設立し、展覧会等企画展の立案をして行い、常設展を開催し市民の美術意識を向上したい。市展は7部門を一堂に展示したい ・ 他府県に負けない会館（景観／運営） ・ 気軽に使える会館（気軽に利用できる場所／立ち寄りやすい／市民が憩える場／フラットな内部） ・ 魅力的な内容・イベント（魅了的なイベントがたくさんある／365日イベント） ・ 外よりも中の充実（使い勝手の良さ／運営） ・ 将来的な維持、管理を考えたシンプルさ ・ 日常と非日常の二面性（生け花の場合は、発表会用と練習用） ・ 広い食堂がほしい ・ できるだけ多くの市民が利用しやすいホールにしてほしい

機能・規模についての意見

図表 4.16 ワークショップ記録：新市民会館の主要施設

	機能	配置	規模	特徴	質・性能		
新市民会館 (主要施設)	メインホール 現在：大ホール 規模：1,400席 特性：多目的 設備：客席ワンスロープ／オーケストラピット／大中小迫り／音響反射板／ピアノ／映写装置／リハーサル室／楽屋5	<input type="checkbox"/> 5～8階 <input type="checkbox"/> 1～4階	<input type="checkbox"/> 1,500席 <input type="checkbox"/> 1,000席 <input type="checkbox"/> 900席 <input type="checkbox"/> 800席 <input type="checkbox"/> 700席	<input type="checkbox"/> 多目的 <input type="checkbox"/> 音楽専用 <input type="checkbox"/> 演劇専用 【残響】 <input type="checkbox"/> 固定 <input type="checkbox"/> 可変 【客席】 <input type="checkbox"/> ワンスロープ <input type="checkbox"/> ワンフラット	【舞台】 <input type="checkbox"/> オーケストラピット <input type="checkbox"/> 迫り／奈落 <input type="checkbox"/> 昇降式の舞台 <input type="checkbox"/> 舞台脇の空間確保 【座席】 <input type="checkbox"/> ゆとりある座席間 <input type="checkbox"/> すわり心地よい座席 <input type="checkbox"/> 座席番号の点字表記	【設備】 <input type="checkbox"/> ピアノ・ピアノ倉庫 <input type="checkbox"/> スクリーンにもなる反響版 <input type="checkbox"/> お城を背景にできる舞台 <input type="checkbox"/> 映像や字幕が映せる壁 <input type="checkbox"/> AVホール <input type="checkbox"/> LED等最新の設備 <input type="checkbox"/> 音声解説システム	【楽屋】 <input type="checkbox"/> 8～10室 <input type="checkbox"/> 6～7室 <input type="checkbox"/> ～5室 【リハーサル室】 <input type="checkbox"/> 舞台と同規模 <input type="checkbox"/> 舞台より小規模 【使用方法】 <input type="checkbox"/> 22時まで使用可能
	サブホール 現在：小ホール 規模：656席 特性：多目的 設備：客席ワンスロープ／オーケストラピット／音響反射板／能舞台／ピアノ／映写装置／リハーサル室／楽屋5 現在：市民ホール 規模：500名 特性：多目的 設備：客席ワンフラット／ピアノ	<input type="checkbox"/> 5～8階 <input type="checkbox"/> 1～4階	<input type="checkbox"/> 800席 <input type="checkbox"/> 700席 <input type="checkbox"/> 600席 <input type="checkbox"/> 500席 <input type="checkbox"/> 400席 <input type="checkbox"/> 300席 <input type="checkbox"/> 200席	<input type="checkbox"/> 多目的 <input type="checkbox"/> 音楽専用 <input type="checkbox"/> 演劇専用 【残響】 <input type="checkbox"/> 固定 <input type="checkbox"/> 可変 【客席】 <input type="checkbox"/> ワンスロープ <input type="checkbox"/> ワンフラット	【舞台】 <input type="checkbox"/> オーケストラピット <input type="checkbox"/> 迫り／奈落 <input type="checkbox"/> 昇降式の舞台 <input type="checkbox"/> 舞台脇の空間確保 【座席】 <input type="checkbox"/> ゆとりある座席間 <input type="checkbox"/> すわり心地よい座席 <input type="checkbox"/> 座席番号の点字表記 【催し物】 <input type="checkbox"/> 漫才・お笑いステージ	【設備】 <input type="checkbox"/> ピアノ・ピアノ倉庫 <input type="checkbox"/> スクリーンにもなる反響版 <input type="checkbox"/> お城を背景にできる舞台 <input type="checkbox"/> 映像や字幕が映せる壁 <input type="checkbox"/> AVホール <input type="checkbox"/> LED等最新の設備 <input type="checkbox"/> 音声解説システム <input type="checkbox"/> 国際会議ができる設備	【楽屋】 <input type="checkbox"/> 8～10室 <input type="checkbox"/> 6～7室 <input type="checkbox"/> ～5室 【リハーサル室】 <input type="checkbox"/> 舞台と同規模 <input type="checkbox"/> 舞台より小規模 【使用方法】 <input type="checkbox"/> 22時まで使用可能
	展示室 現在：展示ホール 規模：250㎡ 特性：可変レイアウト／室内高さ3m 設備：移動パネル壁	<input type="checkbox"/> 5～8階 <input type="checkbox"/> 1～4階 <input type="checkbox"/> 地下階	<input type="checkbox"/> 750㎡ <input type="checkbox"/> 500㎡ <input type="checkbox"/> 250㎡ <input type="checkbox"/> 200㎡ <input type="checkbox"/> 150㎡	<input type="checkbox"/> 常設展示スペース	【催し物】 <input type="checkbox"/> 和歌山市美術展覧会	【設備】 <input type="checkbox"/> 可動パネルで自由な間仕切り <input type="checkbox"/> 団体などの成果発表スペース	
	駐車場 現在：駐車場 規模：150台 主催者用：38台	<input type="checkbox"/> 5～8階 <input type="checkbox"/> 1～4階 <input type="checkbox"/> 地下階	<input type="checkbox"/> 周辺駐車場と連携 <input type="checkbox"/> 400台 <input type="checkbox"/> 300台 <input type="checkbox"/> 200台 <input type="checkbox"/> 100台（付置義務）		<input type="checkbox"/> スムーズな駐車場出入 <input type="checkbox"/> 観光バス用の乗降スペースの確保		

下線：現在の市民会館の仕様

機能・規模についての意見

図表 4.17 ワークショップ記録：新市民会館の施設

機能		規模		質・性能	
新市民会館 (その他・施設・機能)	練習室 現在：練習室 規模：3室 104㎡、68㎡、64㎡	【室数】 <input type="checkbox"/> 8~10室 <input type="checkbox"/> 4~7室 <input type="checkbox"/> ~3室	【規模】 <input type="checkbox"/> 50㎡ <input type="checkbox"/> 100㎡ <input type="checkbox"/> 150㎡舞台の広さ <input type="checkbox"/> 250㎡舞台の広さ	【設備】 <input type="checkbox"/> ピアノ <input type="checkbox"/> 防音 <input type="checkbox"/> レコーディングスタジオ	【使用方法】 <input type="checkbox"/> 市民の文化活動の支援 <input type="checkbox"/> 音楽、絵画、舞踊などで使用 <input type="checkbox"/> 22時まで使用可能
	和室 現在：和室 規模：3室 45.5畳	【室数】 <input type="checkbox"/> 4室~ <input type="checkbox"/> 3室 <input type="checkbox"/> ~2室	【規模】 <input type="checkbox"/> 24畳 <input type="checkbox"/> 18畳 <input type="checkbox"/> 12畳	<input type="checkbox"/> 更衣室	
	会議室 現在：会議室 規模：4室 14~28人用	【室数】 <input type="checkbox"/> 8~10室 <input type="checkbox"/> 5~7室 <input type="checkbox"/> ~4室	【規模】 <input type="checkbox"/> 100人 <input type="checkbox"/> 50人 <input type="checkbox"/> 30人	<input type="checkbox"/> 貸し会議室	
	トイレ 現在：トイレ 各ホール：1室（舞台袖1室） 会議棟：2室	<input type="checkbox"/> 現在より多く <input type="checkbox"/> 現在と同数程度 <input type="checkbox"/> 現在より少なくてもいい		<input type="checkbox"/> 多目的トイレの設定 <input type="checkbox"/> 女子トイレブースを多く <input type="checkbox"/> 化粧スペース	
	ロビー 現在：ロビー 広さとさがある大空間 ※高評価			<input type="checkbox"/> お城を眺めるラウンジ <input type="checkbox"/> 喫茶コーナー	
	幼児室（授乳室） 現在：幼児室（授乳室）、母子室 幼児室 大ホール1室 母子室 大、小ホール1室	<input type="checkbox"/> 各ホール1室		<input type="checkbox"/> 親子で鑑賞できる	
	倉庫、ロッカー	【室数】 <input type="checkbox"/> 10室~ <input type="checkbox"/> 6~10室 <input type="checkbox"/> ~5室	【規模】 <input type="checkbox"/> 50㎡（6×8） <input type="checkbox"/> 20㎡（4×5） <input type="checkbox"/> 6㎡（2×3）	<input type="checkbox"/> 收藏庫（台本等） <input type="checkbox"/> レンタル倉庫 <input type="checkbox"/> 定期ロッカー	
	搬出入口、通路	<input type="checkbox"/> 11tトラック対応 <input type="checkbox"/> 8tトラック対応 <input type="checkbox"/> 6tトラック対応		【設備】 <input type="checkbox"/> 舞台用エレベータ <input type="checkbox"/> 展示室エレベータ	<input type="checkbox"/> 機能的な搬出入動線 <input type="checkbox"/> 重いもの大きなものが運びやすい
	施設案内・催し案内			<input type="checkbox"/> わかりやすい催し案内 <input type="checkbox"/> エントランスの音声案内 <input type="checkbox"/> 使いやすいコントラスト	【障害者等への配慮】 <input type="checkbox"/> 磁気誘導ループ設置 <input type="checkbox"/> 誘導用ブロックの設置 <input type="checkbox"/> 災害時の避難路誘導 <input type="checkbox"/> わかりやすい動線表示 <input type="checkbox"/> 段差が見やすい配色

下線：現在の市民会館の仕様

機能・規模についての意見

図表 4.18 ワークショップ記録：新市民会館の附属施設

		機能	規模	質・性能	
付属施設	観光	<input type="checkbox"/> テラス <input type="checkbox"/> 土産物		<input type="checkbox"/> お城を眺めるテラス <input type="checkbox"/> 和歌山城城郭を鑑賞できる観光者の立ち寄りスポット	
	商業	レストラン・カフェ <small>現在：レストラン喫茶 テーブル席：86名 月曜定休／営業時間 10:00～17:00</small>	<input type="checkbox"/> 4店以上 <input type="checkbox"/> 2～3店 <input type="checkbox"/> 1店	<input type="checkbox"/> 100名～ <input type="checkbox"/> 80名 <input type="checkbox"/> 50名 <input type="checkbox"/> ～30名	<input type="checkbox"/> 無休（休館日も営業） <input type="checkbox"/> 夜間営業（終演時営業）
		<input type="checkbox"/> 各種ショップ／本屋／花屋 <input type="checkbox"/> マーケット <input type="checkbox"/> コンビニ			
	交流	<input type="checkbox"/> フリースペース <input type="checkbox"/> ランニングステーション <input type="checkbox"/> 自転車貸し出しステーション	<input type="checkbox"/> 500～800人	<input type="checkbox"/> 学生などが無料で使えるスペース	
外構・景観など	アプローチ			<input type="checkbox"/> エントランススペースの確保 <input type="checkbox"/> 魅力的なアプローチ	
	屋外広場 <small>現在：緑地広場 成長した植栽 ※高評価</small>	<input type="checkbox"/> 現在より多く <input type="checkbox"/> 現在と同程度 <input type="checkbox"/> 現在より少なくてもいい <input type="checkbox"/> お城に緑があるので不用		<input type="checkbox"/> 芝生／前庭／木かげのベンチ <input type="checkbox"/> 噴水があり、小さな子どもが遊べる広場 <input type="checkbox"/> 市民が集え「ぶんだら」「よさこい」ができるようなスペース <input type="checkbox"/> 野外ステージ <input type="checkbox"/> 散歩で市民会館に立ち寄れる気軽さ	
	隣接施設との連携			<input type="checkbox"/> 和歌山城公園との連続性 <input type="checkbox"/> ロイネットホテルとのオープンな連続性	
	建物			<input type="checkbox"/> 大人数を収容するホール等は防災上、下層階に配置 <input type="checkbox"/> 薬学部とは渡りつなぐ <input type="checkbox"/> 薬学部と市民会館の複合ビル <input type="checkbox"/> 建物を地下に、高さを制限 <input type="checkbox"/> 人が集まるランドマーク	
	景観・デザイン	<input type="checkbox"/> 天守閣や周辺建物より低く		<input type="checkbox"/> 和歌山らしさ、地域性、歴史性を考慮 <input type="checkbox"/> 紀州材にこだわった木製 <input type="checkbox"/> 温かみある木質の手すり <input type="checkbox"/> 外観ライティング	
	公共交通機関の充実			<input type="checkbox"/> 市民は自動車利用が前提条件 <input type="checkbox"/> エントランス直結の送迎乗降場所 <input type="checkbox"/> 屋根のあるバス停 <input type="checkbox"/> 乗降等、入口に名称を示す音声・点字 <input type="checkbox"/> 人が集まりやすい公共交通	
考え方	市民会館設置			<input type="checkbox"/> 見に行くところだけでなく、文化を育てる市民文化を支える施設 <input type="checkbox"/> プロがやる舞台上で、発表すること、鑑賞することが必要	

下線：現在の市民会館の仕様

4.5. 市民発信の意見

市民から発信された意見（嘆願書等）を整理します。

■新たな市民会館について

- 他施設と競合しない中規模 800 人程度の優れた音響をもつ音楽・芸術専用ホール
- 最新設備の多目的ホール
- 練習室、スタジオ、リハーサル室、展示室、駐車場の確保
- 障がい者・子どもの利用しやすい会館
- 11 トンロングトラックの入る搬入口

市民から発信された意見として、3万5千人の署名を集めた「新音楽ホール建設 嘆願書」では、県民文化会館などの他施設と競合しない中規模 800 名程度のホールで、世界的な音楽演奏家にも満足して頂ける優れた音響をもつ音楽・芸術専用ホールの建設が意見として示されています（図表 4.19）。

市民会館を日頃利用している団体が集まって結成した「和歌山市民会館について考える会」からは、「和歌山市民会館についての要望書」として、多種類の催事に対応出来る最新設備の多目的ホールや、芸術創造のための練習室・スタジオ・リハーサル室、多彩な芸術作品を発表・展示できる展示室、市民ホール、駐車場等の確保、障がい者・子どもの利用しやすい会館、ゆとりある搬出入口の整備などが意見として示されています（図表 4.20）。

図表 4.19 「新音楽ホール建設 嘆願書」（抜粋）

1. 県都にふさわしい文化ゾーンに立地し、文化センターの役割をはたすこと。
2. 良質な音楽芸術を提供するホールであり、優れた演奏家がこぞって来訪を求める優れた音響とサービスを提供する施設であること。
3. 行政の企画段階に音楽・文化関係者が参画し、署名者の意見が企画に反映されること。

署名内容（35,728名の署名 平成27年3月5日現在）

1. 県都和歌山市にふさわしい良質な音楽・芸術（パフォーマンス・アーツ）専用ホールとなること。
2. すでに和歌山市にある和歌山県民文化会館、ビック愛、アートキューブなどの施設と重複しない規模（中規模、収容人員 800 名）であること。
3. 和歌山音響芸術演奏家および音楽ファンの期待に応え、かつ将来来演される世界的な音楽演奏家にも満足いただける優れた音響をもつ音楽・芸術（パフォーマンス・アーツ）専用ホールであること。

日付：平成 27 年 3 月 9 日

宛先：和歌山市長宛

発信：和歌山市に新音楽ホールをつくる会

（代表 2 名、事務長 1 名）

図表 4.20 市民意向：和歌山市民会館についての要望書（抜粋）

幅広い文化団体・市民に歓迎される市民会館の建設をしてください。

- ・ 多種類の催事に対応できる最新設備の整った適正規模の多目的ホールを建設してください。
- ・ 芸術創造のための練習室、スタジオ、リハーサル室をつくってください。
- ・ 多彩な芸術作品を発表、展示できるスペースをつくってください。
- ・ 中規模ホール以外に多彩な催しに利用できる「市民ホール」をつくってください。
- ・ 障がい者・子どもの利用しやすい会館にしてください。
- ・ 無料もしくは安い料金の大規模な駐車場を併設してください。
- ・ 11 トンロングトラックの入る使い勝手の良い搬入口を作ってください。
- ・ その他、各団体からの具体的要望をしっかり受け止めて建設に反映させてください。

日付：平成 27 年 4 月 14 日

宛先：和歌山市長宛

発信：和歌山市民会館について考える会

（世話人 7 名、呼びかけ団体・個人 44）

この他、市民会館の建設に関連して、伏虎中学校跡地の利用についても検討していく過程について市民からの意見が示されています。

図表 4.21 市民意向：伏虎中学校跡地利用に関する要望書（抜粋）

- ・ 市民ワークショップ開催による跡地利用方法の検討
- ・ 伏虎中学校跡地活用基本構想策定協議会への過半数の市民の参画
- ・ 市民主体による和歌山市再生協議会の設立

日付：平成 27 年 7 月

宛先：和歌山市長宛

発信：みんなで伏虎中跡地を提案する市民の会

（代表世話人 1 名、世話人 5 名）

4.6. 調査等からの市民ニーズの分析

市民アンケート調査等から現在の市民会館に対する意見と新しい市民会館についての市民ニーズを分析します。

図表 4.22 市民の意向のまとめ

	市民の意向 (P10~P32) のまとめ (再掲)	
	現在の市民会館	新たな市民会館
市民アンケート調査	<ul style="list-style-type: none"> ○ 「音楽」「演劇等」「講演会」「展覧会」は市民会館、県民文化会館を多く利用 ○ 「音楽」「演劇等」は、県民文化会館の利用者が若干多い 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 新市民会館に必要なものは「駐車場」「バリアフリー」「鑑賞しやすい座席」「飲食・喫茶機能」が多い ○ メインホールは「多目的」「1,000席以上」が多く、サブホールも「多目的」が多い
市政世論調査	—	<ul style="list-style-type: none"> ○ 6割以上が市民会館の移設に賛成 ○ 市民ホールは多目的なものが求められている ○ 「駐車場」「バリアフリー」「飲食・喫茶機能」「鑑賞しやすい座席」を求められている
市民会館建替えに関するアンケート調査	<ul style="list-style-type: none"> ○ 総合的な現在の市民会館の満足度は、満足・やや満足・普通が85.7% ○ 小ホール、練習室を利用する利用者・団体が多い ○ ホールの公演コマ来場者は300~800名が最も多い ○ 練習はほとんどが市民会館以外を利用し、その多くがコミュニティセンターを利用 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 建設で重要なものは「駐車場の整備」「音響性能」「あらゆる人に優しい施設」「鑑賞しやすい座席」が多い ○ ホールの席数は「800~1000席」が多い ○ メインホール以外に必要なものは「飲食施設」が最も多い
ワークショップ	<ul style="list-style-type: none"> ○ 施設 <ul style="list-style-type: none"> 好評：ゆとりあるロビー・ホワイエ／利用しやすい規模 不評：駐車場が不便／動線が複雑／老朽化／トイレが不便 ○ 運営 <ul style="list-style-type: none"> 好評：誰もが多目的で利用しやすい／料金が安い 不評：施設案内が少ない／情報発信が少ない／専門スタッフが不在 ○ 立地 <ul style="list-style-type: none"> 好評：駅近／前庭の緑地 不評：敷地周辺との連携がない／周辺にくつろげる場所がない 	<p>ソフト面</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 全市的な文化振興の方針、各施設の役割分担が必要 ○ 運営には、市民や団体が関われる仕組みや専門スタッフの配置が必要 ○ 文化振興のため人材発掘・育成が必要 ○ 所用や目的のない人も立ち寄れる施設 <p>ハード面</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 誰もが使いやすい施設、設備の整備 ○ 最新機能を搭載した施設、設備の整備 ○ 大きさ重さに対応した搬入、ストック機能 ○ お城を活かした施設、設備の整備 ○ 駐車場の確保、公共交通の確保 ○ 市民会館に付属する機能は観光、飲食、物販、交流、広場、周辺との連携
市民発信の意見	—	<ul style="list-style-type: none"> ○ 他施設と競合しない中規模800人程度の優れた音響をもつ音楽・芸術専用ホール ○ 最新設備の多目的ホール ○ 練習室、スタジオ、リハーサル室、展示室、駐車場の確保 ○ 障がい者・子どもの利用しやすい会館 ○ 11トンロングトラックの入る搬入口

会館として必要な機能

「**駐車場の確保**」「**バリアフリー、鑑賞しやすい座席等の誰もが快適に鑑賞できる機能の向上**」、「**音響性能等の技術的な機能の維持・充実**」が求められています。

ホールに必要な機能

800席～1,000席規模の**最新設備の整った多目的ホール**、サブホールとして**市民ホール**が求められています。また、他施設と重複しない規模の**音響に優れたホール**が求められています。

ホール以外に必要な機能

「**レストラン、カフェ等の利用者自身の利便性を高める機能**」が求められています。その他「**練習室**」「**リハーサル室**」「**展示室**」「**ランニングステーション**」などが多くの方に求められています。また、**大型トラック（11トンロング）での搬出入**が可能となる**バックヤードや搬路の確保**が求められています。

屋外では、芝生などの緑に覆われた広場を設置し、屋外ステージや子供が遊ぶ場所、くつろげる木陰のベンチなどの整備が求められています。

4.7. 市民ニーズからの課題

調査等による市民ニーズの分析から、課題を示します。

■ 周辺施設と連携した駐車場の確保の検討

全ての調査の結果から、充足した台数の駐車場確保が求められています。駐車場施設が周辺に分布する伏虎中学校跡地では、それらとの連携も図りながら駐車場を確保していくことが求められます。

■ より多くの人が利用できる施設・仕組みの検討

市民アンケートやワークショップでは、駐車場の充実、施設のバリアフリー化、鑑賞しやすい座席の設置を求める意見などがありました。ホールに対しては、多目的なホールを求めています。特に、施設のバリアフリー化に関しては、段差の解消、駐車場から施設内まで雨に濡れない工夫、磁気ループの整備や、コンベンション機能としても求められる字幕表示や電光掲示板、点字や音声による案内の充実など具体的な例をあげてユニバーサルデザインの充実を求める意見が多くありました。市民会館がより多くの人に利用される施設となるため、様々な人達が多様なシーンに使える仕組みの検討が求められます。

■ 必要に応じたホール規模の検討

市民会館利用者アンケートで、望ましいホールの席数を「800～1,000席」とする意見が多くなっていることから、現在の1,406席の大ホールの縮小、656席の小ホールの拡大など、2つのホールの機能を統合したメインホールの規模の検討が必要です。

■ 市民の意見の把握、ニーズに合った機能確保の検討

鑑賞や発表などに求められるホールの機能や、創作活動や練習などのニーズに合った諸室、これまでの市民会館にはなかった「ランニングステーション」や「レンタルサイクル」「イベント広場」などの機能の検討が求められています。

■ 周辺施設と連携した飲食施設の確保の検討

市民会館利用者の多くは、レストラン・カフェ等の飲食機能の充実を求めており、その要望はホールに次いで多くなっています。

5. 市民会館再整備の考え方

5.1. 再整備の検討

現在の市民会館については、「3.6 現在の市民会館の課題 (P9)」より、「市民の文化活動の実態に沿ったホール規模や機能の整備、運用が必要」「市民が安全かつ快適に利用できる文化施設の整備が急務」となっています。

また、新たな市民会館についても「4.7 市民ニーズからの課題 (P35)」より「より多くの人ができる施設・仕組みの検討」「周辺施設と連携した飲食施設の確保の検討」といった課題を整理しました。

ここでは以上の課題を踏まえるとともに、市民会館の再整備を進めるにあたって考えられる、3つの手法「耐震改修」「現地建替」「移設」についてその方向性を整理します。

再整備の3つの手法 耐震改修 現地建替 移設

図表 5.1 再整備手法の検討

手法	耐震改修	現地建替	移設
建設コスト	約 67 億円	約 65～72 億円※1	約 65～72 億円※1
国庫補助を活用※2	△ 小額だが補助金が活用可能	○ 都市再生の重点施策として補助金が活用可能	○ 都市再生の重点施策として補助金が活用可能
再整備に伴う休館※3	△ 2年間の休館期間が必要となる	△ 3年間の休館期間が必要となる	○ 休館期間はなく、営業継続できる
ニーズの対応※4	最新の設備	△ 条件付きだがニーズに対応できる	○ ニーズに対応できる
	新しい空間	× ニーズに対応できない	○ ニーズに対応できる
	周辺と連携した新たな機能	× ニーズに対応できない	○ ニーズに対応できる
中心市街地への波及効果※5	△ 中心市街地の外れに位置し、波及効果は少ない	△ 中心市街地の外れに位置し、波及効果は少ない	○ 中心に位置し、人が集まる施設として波及効果が高い

※1：「12.4 概算事業費 (P66)」参照

※2：○一定の補助金有り △小額の補助金有り

※3：○休館期間なし △一定期間の休館期間有り

※4：○対応が可能 △制約の範囲内で対応可能 ×対応できない

※5：中心市街地は和歌山市中心市街地活性化基本計画の基本計画区域

○中心市街地全体のへの波及効果が高い △中心市街地全体のへの波及効果が低い

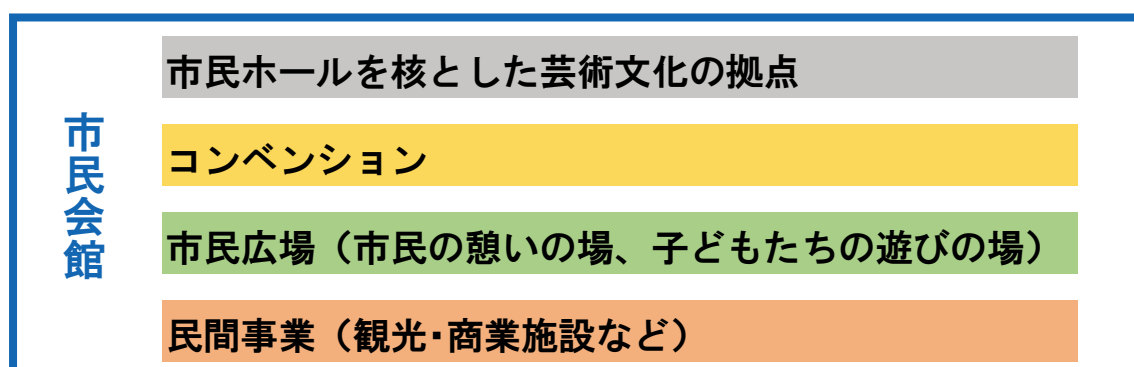
以上により、市民会館は移設による再整備を目指します。

5.2. 移設先の伏虎中学校跡地

伏虎中学校跡地活用の基本的な方向（伏虎中学校跡地活用構想 跡地利用構想）から、市民会館の移設先としての敷地条件を整理します。

図表 5.2 伏虎中学校跡地活用の基本的な方向

伏虎中学校跡地は、**市民会館と大学を核として「各機能を連携し、まちなかににぎわい創出の好循環をつくる」**拠点となるよう活用します。



大学（和歌山県立医科大学薬学部）の誘致



5.2.1. 新市民会館の位置

新市民会館の敷地は、和歌山市の中心市街地の中心、和歌山城の北に位置するロケーションの良い伏虎中学校跡地に移設します。

位置：和歌山市七番丁 25 番 1 外 3 筆

JR 和歌山駅より約 1,700m、南海和歌山市駅より約 800m

敷地面積：約 13,000 m²

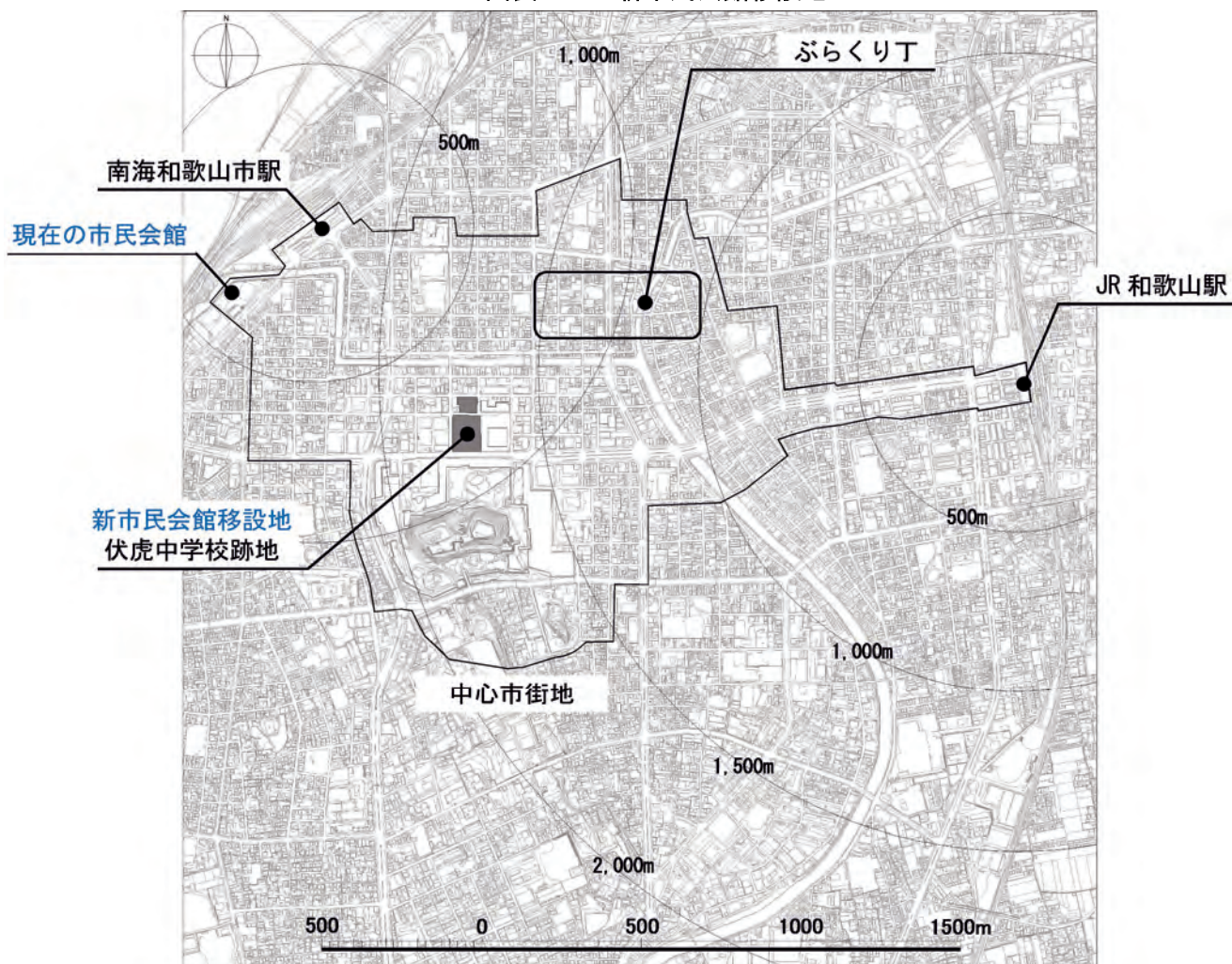
北敷地：約 3,000 m²

南敷地：約 10,000 m²

周辺環境：官公庁施設や事務所ビルが集まるオフィス街

隣接施設：市役所、和歌山城、ホテル

図表 5.3 新市民会館移設地



市民会館を伏虎中学校跡地に移設することによる変化

○南海和歌山市駅から約 800m(徒歩約 10 分)、JR 和歌山駅から路線バスで約 10 分。

南海和歌山市駅（鉄道駅、バスターミナル、タクシー乗り場等）からの道のりが、現在の市民会館までの約 400m（徒歩約 5 分）から伏虎中学校跡地までの約 800m（徒歩約 10 分）に離れます。一方、JR 和歌山駅からのアクセスは向上し、路線バスで約 10 分と近くなります。

○施設周辺に商業サービス施設、宿泊施設や駐車場施設が増え便利に

現在の市民会館周辺にはコンビニエンスストアや飲食店などの商業サービス施設がほとんどない状態ですが、伏虎中学校跡地は中心部に位置し、飲食等の商業サービス施設やホテルがあり、来訪者の利便性が向上します。

また、周辺部には公共や民間の駐車場施設も多く分布しており、自家用車等で来場される方にも利便性が増します。

○和歌山城、和歌山公園が隣接したシンボリックな場所へ

現在の市民会館からは遠景として見える和歌山城も、伏虎中学校跡地に移設すると間近に見え、和歌山公園へもすぐに立ち寄れるようになります。市外、海外からの来訪者にとっては、和歌山市を訪れたことを深く実感できる場所になります。

5.2.2. 伏虎中学校跡地内の敷地検討地

敷地検討地 南敷地（約 10,000 m²）の南側

※和歌山城、けやき大通りに面した南側全面

建築規制 ○商業地域 容積率 600% 建ぺい率 80%

○斜線制限※ 道路斜線制限、隣地斜線制限

○防火地域 耐火建築物（延床面積 100 m²超えの建物）

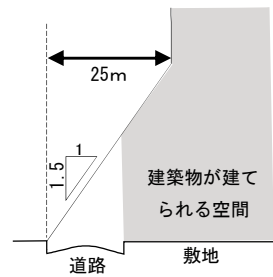
※一部、準防火地域

○景観条例 壁面位置を原則 10mセットバック（けやき大通りより）

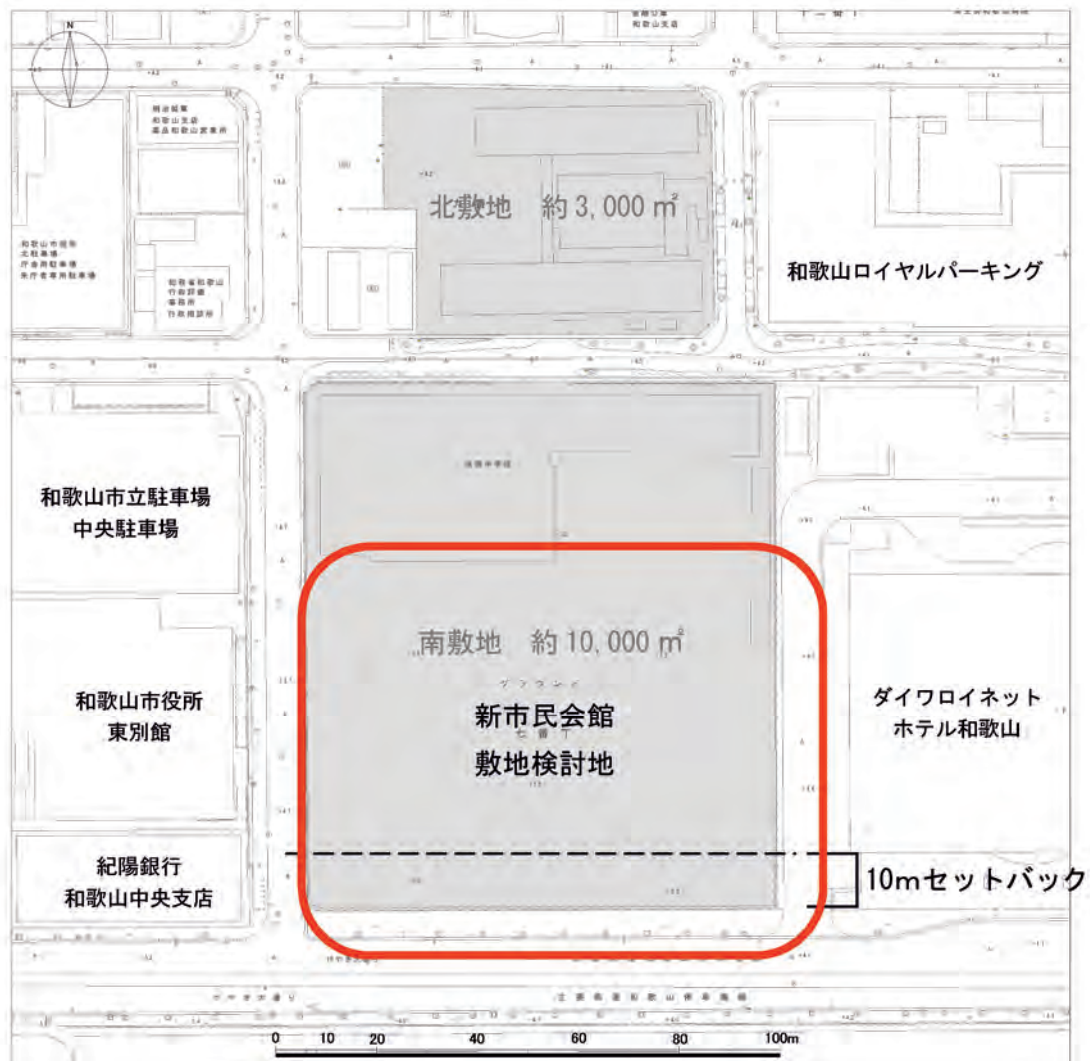
最高高さ制限 75m（標高）

※ 斜線制限：建築物の各部分の高さに関する制限。建築物を真横から見たとき、空間を斜線で切り取ったような形態に制限します。

道路斜線制限の概要



図表 5.4 新市民会館の敷地検討地



6. 他市の市民会館整備事例

6.1. 近年、建設された多目的でコンパクトな施設

～PFI 事業による施設整備。運営・ネーミングライツ～

○北九州市黒崎ひびしんホール（福岡県）

平成 24 年（2012 年）6 月

- ・ホールに併設し図書館、マンション等を PFI 事業で整備
- ・ホールについては SPC（特定目的会社）※による自主事業とし、ホール稼働率、練習室利用者数や維持管理運営の水準に応じたサービス購入

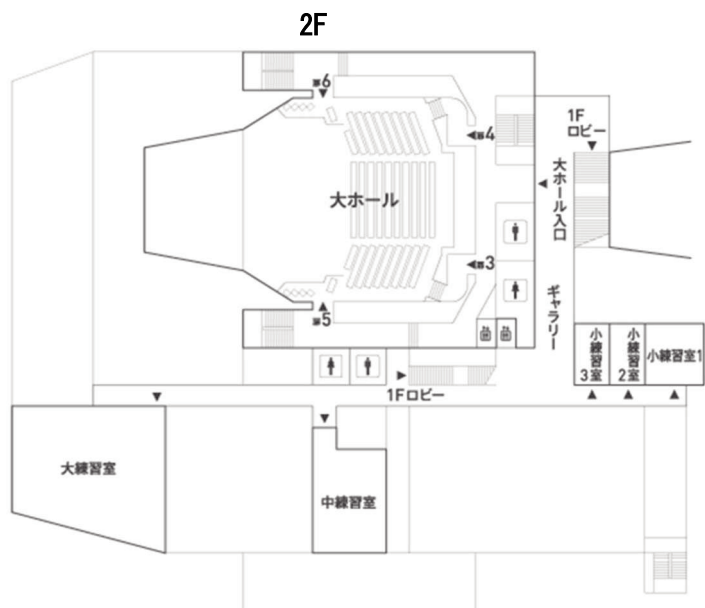
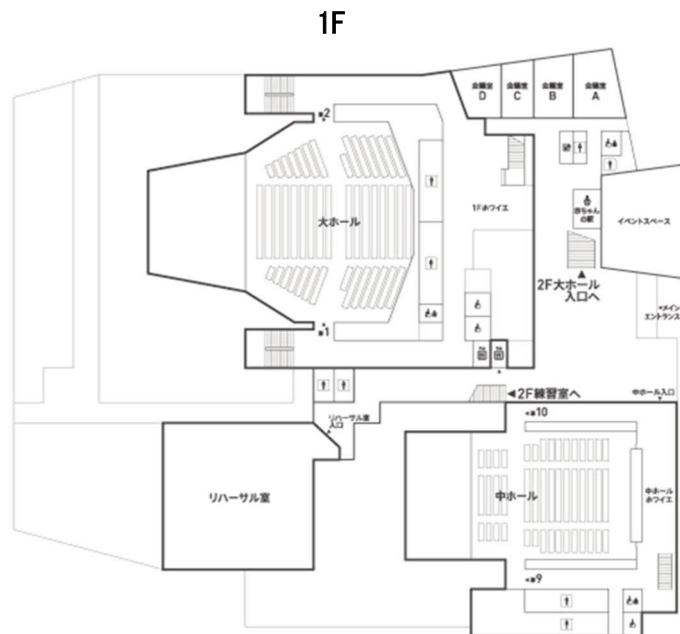


主な施設

- メインホール 826 席
- サブホール 310 席
- リハーサル室 (1)
- 会議室 (4)
- 練習室 (4)
- ロビー・ギャラリー
- 屋外ステージ

建築面積：5,757 m²

延床面積：11,928 m²



※ SPC：「Special Purpose Company」（スペシャル・パーパス・カンパニー）の略。

設計、建設、施設運営などの特定の事業を行うことのみを目的として設立する会社

HP より

～震災復興の文化芸術拠点として、駅前公園と一体整備し避難所として～

○柏崎文化会館アフォーレ（新潟県）

平成 24 年（2012 年）4 月

- ・ 基本理念は、芸術創造活動の中核拠点、市民に親しまれ交流やにぎわいを創出する場、復興の象徴として愛され誇りに思われる施設となること
- ・ 駅前の土地区画整理事業に含まれ、防災公園と一体に整備



主な施設

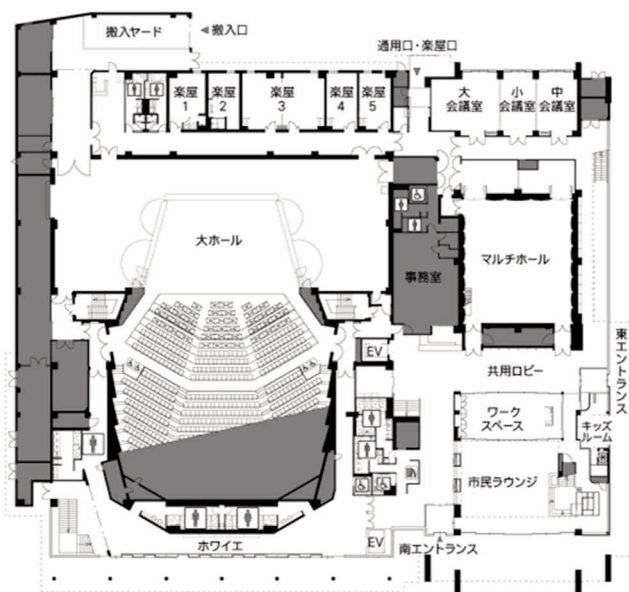
- メインホール 1, 102 席
- サブホール 160 席
- リハーサル室 (0)
- 会議室 (4)
- 練習室 (2)
- ラウンジ

建築面積：4,423 m²

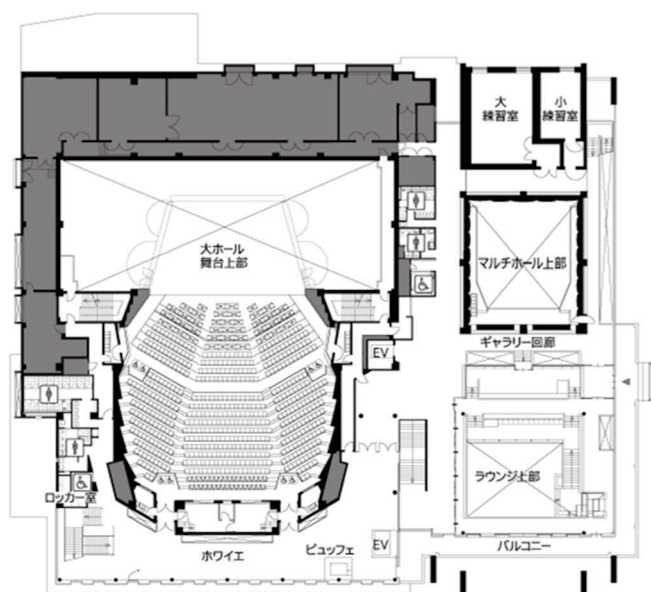
延床面積：7,677 m²



1F



2F



HP より

～舞台芸術の創造の場と人々の交流の場、PFIによる整備～

○穂の国とよはし芸術劇場 PLAT（愛知県）

平成 25 年（2013 年）4 月

- ・メインホールでは良質な劇場環境を実現するため、生の台詞にこだわり、舞台から客席までが 20m 以内
- ・サブホールも平土間ながら奈落、オーケストラピット、フライタワーを備え、多様なシーンに対応できる高機能多目的ホール



主な施設

メインホール 796 席

サブホール 266 席

リハーサル室 (1)

会議室 (2)

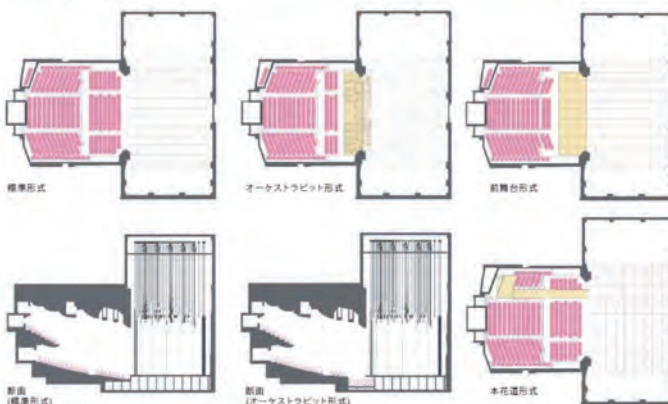
練習室 (3)

ラウンジ

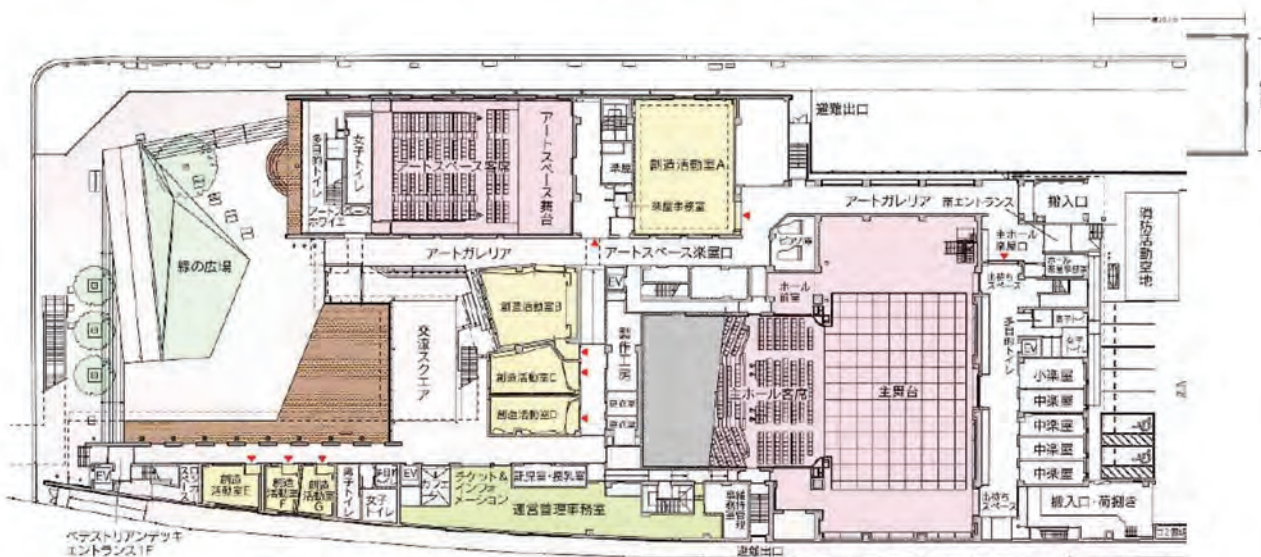
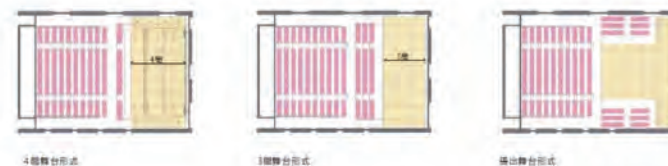
建築面積：4,221 m²

延床面積：8,036 m²

客席と舞台の利用パターン



客席と舞台の利用パターン



6.2. 運営の工夫により多くの人々に利用されている施設

～市民協働による施設整備・施設運営で愛される施設～

○茅野市民館（長野県）

平成 17 年（2005 年）10 月

- ・ワークショップを重ね市民参加で構想、施設計画、運営計画を作成
- ・完成後、専門家集団の運営会社を立ち上げ、更に市民がサポートする仕組みを構築し、市民に愛されて利用される施設

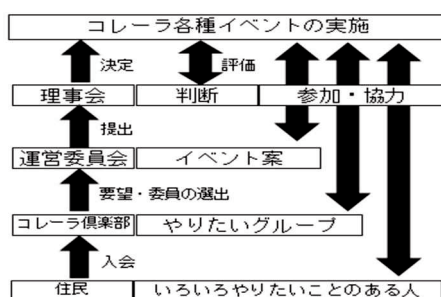


施設パンフレットより

～市民が施設運営する関わるフレンドリー施設～

○黒部市国際文化センター コラーレ（富山県）

平成 7 年（1995 年）11 月



- ・「市民の意思（企画等）と参加（ボランティア等）によって運営されていく」ことを基本理念に運営委員会を発足
- ・意欲的なメンバーが会場案内や託児、照明・音響をサポート



サポーター企画のテラスより

～館長兼劇場総監督を配置し、経営的視点で高い稼働率～

○可児市文化総合センター（岐阜県）

平成 14 年（2002 年）

- ・文学座、新日本フィルと地域拠点契約、アウトリーチ、ワークショップの実施、滞在型演劇制作や市民ミュージカルを企画
- ・地域を巻き込む運営で施設稼働率 85%（2ホール 73%、74%）



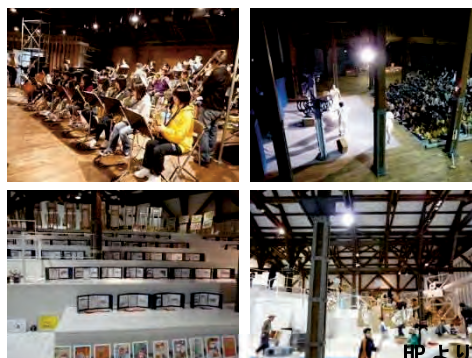
HP より

～24 時間、365 日利用できる演劇、美術、音楽の創造の場～

○金沢市民芸術村（石川県）

平成 8 年（1996 年）10 月

- ・市民から選ばれた 3 部門のアーティストが体験ワークショップなどで芸術文化に触れる機会を提供
- ・制作、練習など昼夜を問わず作業が可能



HP より

6.3. 市民会館を取り巻く動向

■市民会館の多目的化

全国的な動向として市民会館は、文化の拠点としての活用だけでなく、駅前や中心地などに立地して、多くの市民が利用できる多機能な複合施設として整備されたり、まちづくりや地域コミュニティの拠点となるような機能を併せ持つ施設として整備されるなど、多目的な活用ができるものが増えています。

■事業費を抑制したコンパクトな施設づくり

コンパクトな施設・ホールであっても、高機能で多目的なものが技術的に可能になってきています。周辺の施設との差別化を図りながら、適正な規模の多目的なメインホールを配置することによって、サブホールの数や規模を押さえ、全体としてコンパクトな施設を整備しているところも増えています。

■多くの人が利用する運営の工夫

多くの人の利用を促す運営として、市民が施設づくりや運営にかかわる仕組みを導入したり、専門的知識や多くの人脈を持つプロデューサーによって地域を巻き込む仕掛けを企画するなど、さまざまな工夫があります。

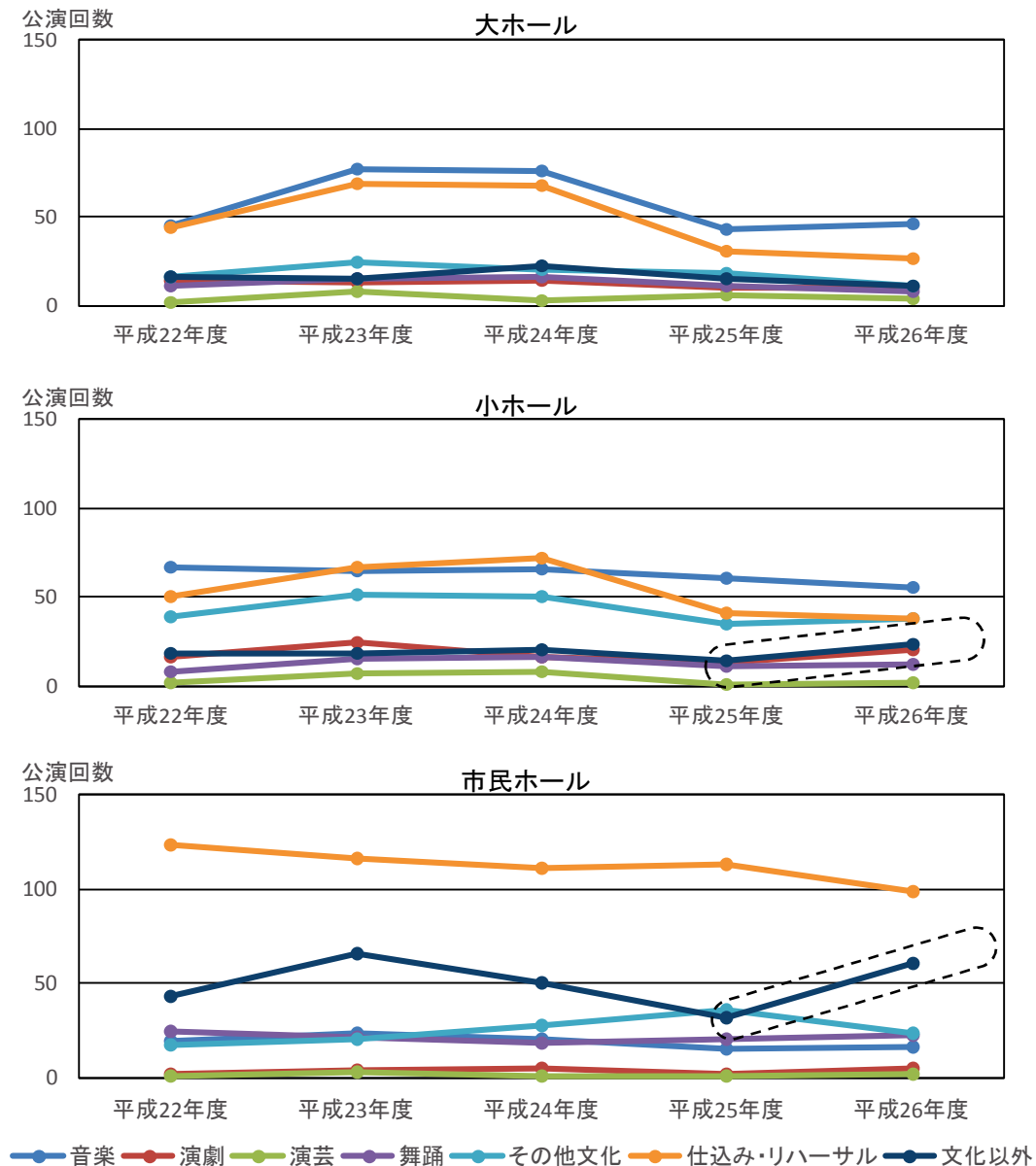
7. 新市民会館の新たな可能性

7.1. ジャンル別のホール需要

- **文化活動以外（記念式典・説明会・タウンミーティング等）でのホール需要が高まる可能性がある**

各ジャンルの公演回数はほとんど横ばい、減少傾向にあるなか、文化活動以外（記念式典・説明会・タウンミーティング等）での小ホール・市民ホールの利用が増加傾向にあります。特に、平土間の市民ホールを利用した記念式典・説明会等が増加しており、今後この傾向が続くことにより、ホール需要が高まっていくことが予想されます。

図表 7.1 ホール別のジャンル別の（貸館事業）公演回数の推移



7.2. 市民会館利用の需要

○ これまで関心のなかった層を取り込む仕組み・仕掛けづくりにより、潜在需要を喚起する可能性はある

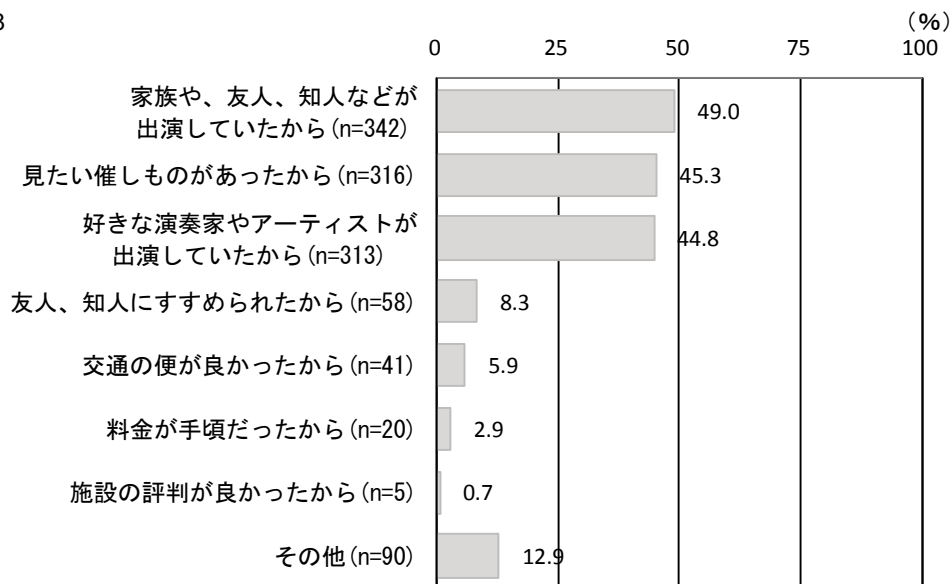
市の人口が減少するなか、市民会館の利用者も減少していくことが予想されます。現在の利用者数を維持し、増加していくためには芸術文化に興味をもつ人材を増やしていくことが必要となります。

市民アンケート調査では、市民会館を利用したきっかけを「家族・知人の出演」、「見たい催し」、「好きな出演者」とする回答がほとんどを占めています。この中で利用者を増やすために見たい催し、好きな出演者のいる催しを事業化することは、人の趣味や嗜好が多様化する現代においては非常に難しくなっています。しかし、家族・知人の出演については、多くの市民が主役となる催しを事業化することができれば、その家族・知人が市民会館を利用することにつながります。

図表 7.2 市民アンケート：市民会館を利用したきっかけ

利用されたきっかけや理由について。(複数回答)

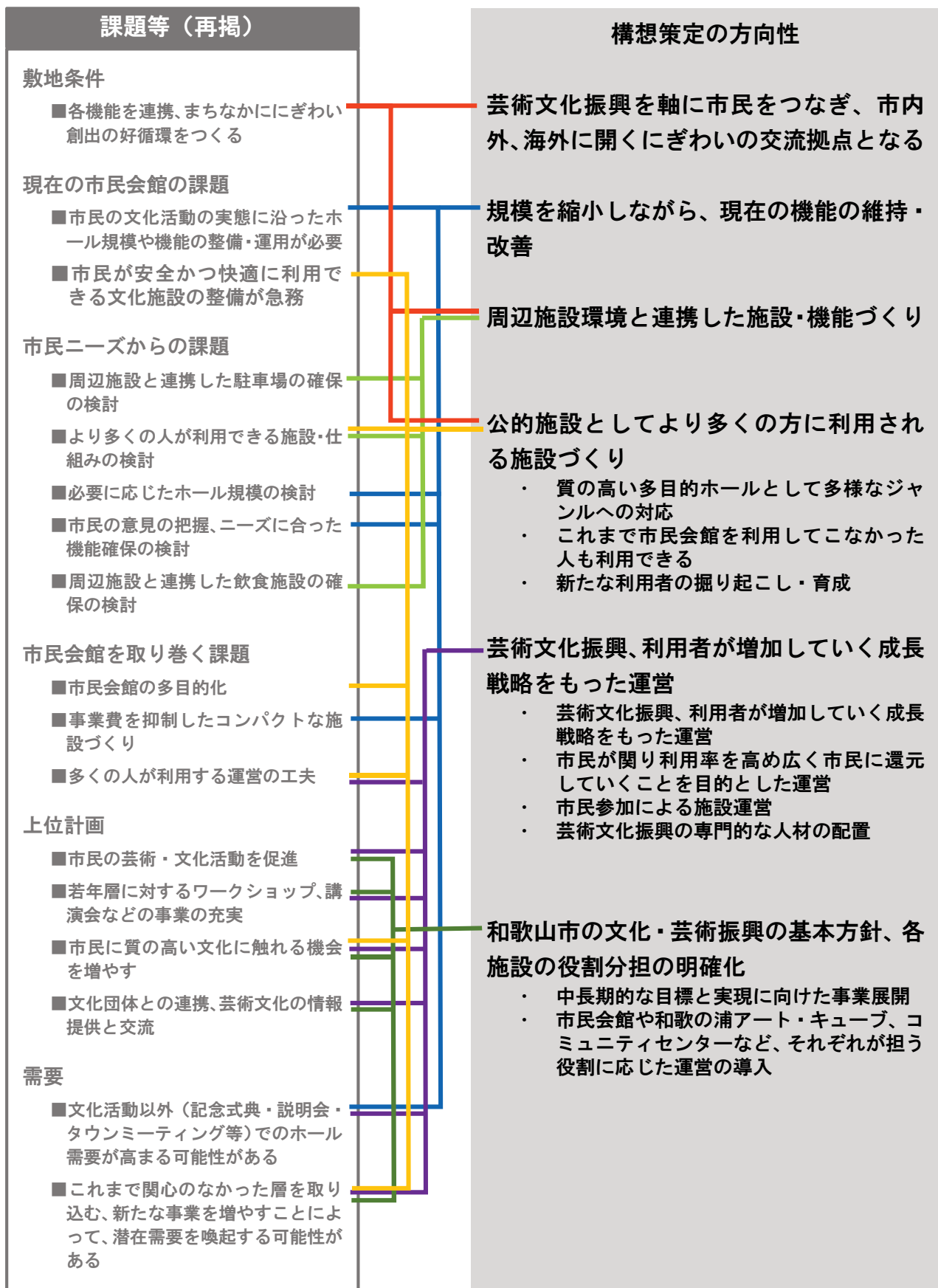
N = 698



芸術文化に興味をもつ市民を増やす

近年の事例として、学校体験・市民ワークショップ、市民ミュージカルなどの事業を実施している例や、新たな市民会館の事業として、バックステージツアー、アウトリーチなど市民参加の催しを充実したり、地域に飛び出すようなイベントを増やしている例などがあります。家族・知人の出演を増やし、更にそれをきっかけに観客・参加者の利用を増進する可能性があります。

8. 課題の整理



9. 新市民会館の基本理念

芸術文化・人に出会う喜びや感動が

まちの元気につながる「にぎわいの文化交流拠点」

市民が多様な芸術文化を鑑賞、表現し、次代へと育てながら、新しく創造し、これらを発信し続ける文化拠点となります。また、和歌山市の芸術文化のシンボルとして、市民と市民をつなぐだけでなく、市外や海外からの来訪者をつなぐ交流拠点となります。さらに、いつでも誰かが居て、訪れる人を迎え、新たな発見や出会いが尽きることなく未来に続くにぎわい発信拠点となります。



10. 新市民会館の基本方針

3つの基本理念に基づく、新市民会館の基本方針と役割、これを実現するため施設整備・運営の方針を示します。

10.1. 新市民会館の基本方針

多様な芸術文化を市民が創造・発信していく文化拠点

① 多様な芸術文化を鑑賞する場

多くの市民が、多様な芸術文化に触れる機会を得るため、喜びや感動を感じることのできる鑑賞の場を提供します。

② 市民の芸術文化活動の表現の場

市民の芸術文化活動の成果を家族、知人や市民に広く発表することによって、喜びや感動を生み出す表現の場を提供します。

③ 新たな芸術文化の創造の場

市民の芸術文化活動や、プロや異種芸術文化との連携などによって、新たな芸術文化を生み出していく創造の場を提供します。

④ 芸術文化の担い手となる人材を育てる場

多くの市民が芸術文化に触れる機会を増やし、今まで芸術文化に関わりの少なかった人たちに楽しさを伝え、次代を担う人材の発掘や人材を育てる場を提供します。

和歌山市の芸術文化のシンボルとして、
市内外、海外を広くつなぐ交流拠点

⑤ 市内外、海外から出演者、観覧者が訪れる場

和歌山市の芸術文化のシンボルとして、市内外だけでなく海外からも出演者や、観覧者が訪れる場を提供します。

⑥ 観光・ビジネス来訪者も立ち寄れる場

和歌山城やホテルに訪れた観光客や、官公庁施設やオフィス街に訪れたビジネス来訪者などがお城を眺めながらくつろぐことができ、食事や情報入手をすることのできる立ち寄れる場を提供します。

⑦ 市内外、海外からコンベンションを迎える場

各種大会や会議、研究会、討論会、講習会などのコンベンションに対応できるよう、ホテルや大学との連携を図りながら市内外、海外からの来訪者、組織・団体を迎える場を提供します。

いつでも発見があり誰かがそこにいるにぎわい発信拠点

⑧ 市民会館利用者や学生がいつも観^みえる場

市民会館利用者はもちろん、学生が集^みうことや食事や喫茶を楽しむことができ、いつでもそこにおいて、その人影が外からもにぎわいとして観^みえる場を提供します。

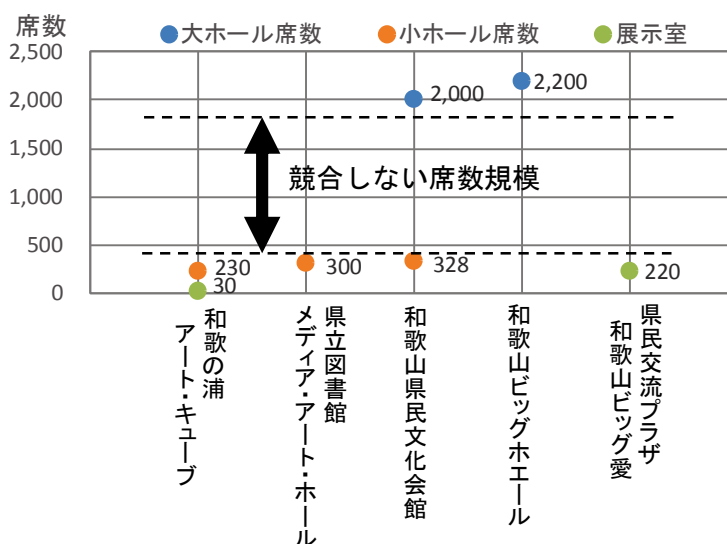
⑨ 市民や来訪者が立ち寄りたくなる出^み会いの場

お城を眺めながら食事や喫茶ができたり、館内イベントが屋外にわかりやすくインフォメーションされたり、ロビーホール、屋外ステージでミニイベントが開催されたり、移動屋台の不定期販売があったりと、訪れる度に変化し、いつも新しい発見のある、出^み会いが期待できる場を提供します。

10.2. 新市民会館の施設整備の方針

① 他施設と競合しない機能・規模の整備

新市民会館は、和歌山県民文化会館や和歌の浦アート・キューブなどの他施設と競合しないような機能・規模を整備していきます。



② 市民の意見を取り入れた施設整備

和歌山城に面した敷地は、市民の貴重な財産であることを深く認識し、市民の意見を可能な限り取り入れながら、諸条件の整理・調整を図っていきます。特に、要望が多い施設のユニバーサルデザインについては、誰もが快適かつ安全に利用することができるよう、整備を行います。また、将来主な利用者となる若者の意見を積極的に取り入れていきます。

③ 民間活力を活用した施設整備の調査・検討

施設は、和歌山市民にとってシンボリックなものであり、かつ話題性も高いことから、民間活力を活用した整備についても調査・検討していきます。

10.3. 新市民会館の施設運営の方針

① 貸館業務中心の「待ち」の運営から「攻め」の運営への転換

市民参加イベント、アウトリーチ等で施設内だけでなく、和歌山城や地域に飛び出すイベントを充実させることにより、芸術文化に興味を持つ新たな市民の裾野を拡大していきます。

市民が市民会館の企画・運営のサポーターとなる仕組みを取り入れ、多くの市民が主役となって市民会館運営に関わりを持ちながら芸術文化を創造・発信していく運営を目指します。

② 専門の知識を持った人材の配置と活用

文化施設の運営、自主事業の企画・実施のノウハウを持った人材を外部からの登用も含めて管理運営組織内に配置できる運営を目指します。

③ 市民が利用しやすい運営

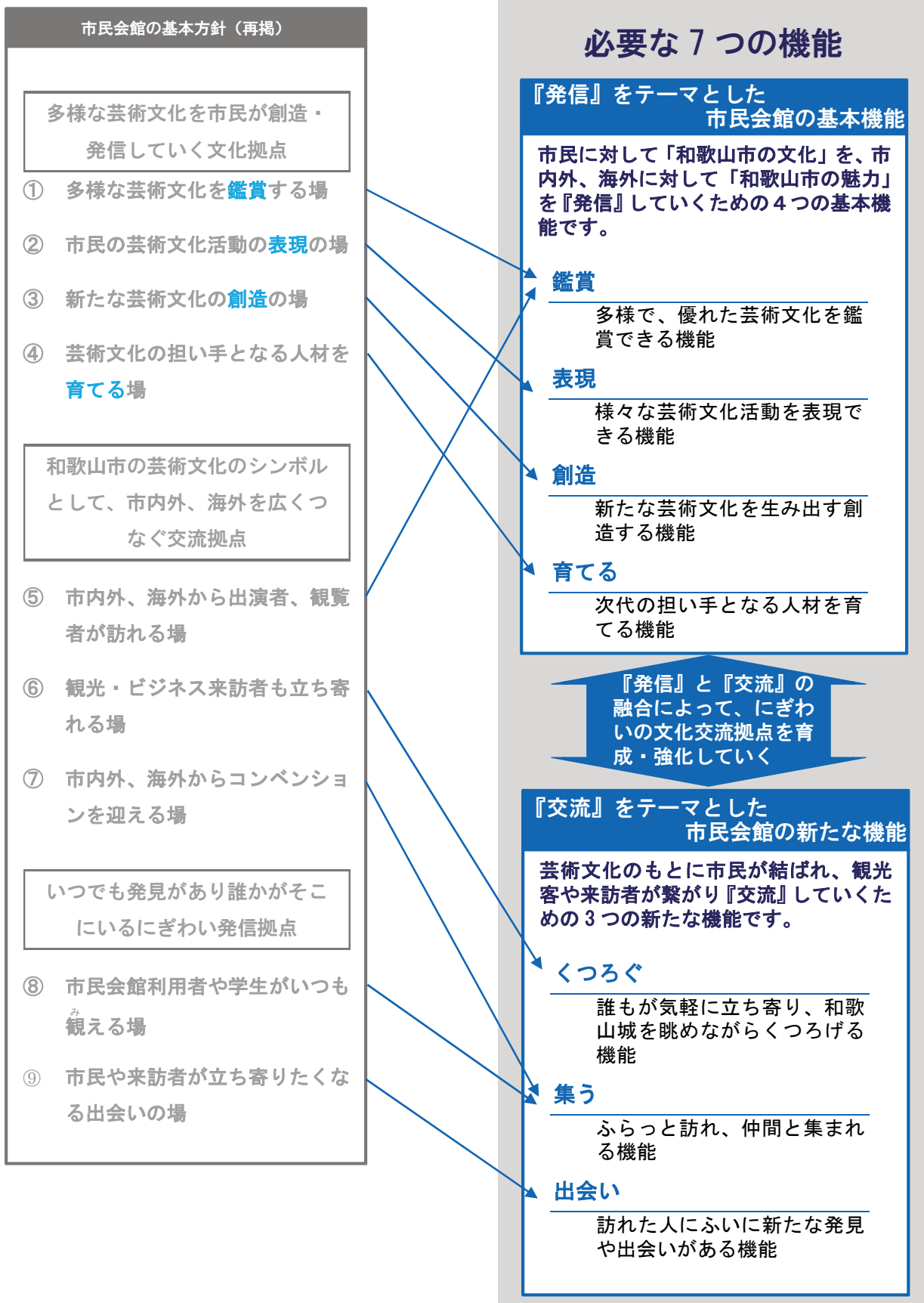
市民が利用しやすい料金設定とします。これまで利用してこなかった人でも、日常的にふらっと入ってきたくなる仕掛けを充実します。

施設案内、情報発信等、わかりやすい見せ方や積極的なPRを行います。

④ 常に新しい意見を取り入れた運営

将来に渡って利用者を増やしていくため、常に若い人の意見を取り入れ、市民が愛着を持って利用し続けることができる施設運営を目指します。

11. 実現に必要な機能



12. 主な施設

必要な7つの機能							主な施設の概要
『発信』をテーマとした基本機能				『交流』をテーマとした新たな機能			
鑑賞	表現	創造	育てる	くつろぐ	集う	出会う	
●	●	●	●				<h3>ホール</h3> <ul style="list-style-type: none"> ・ プロによる優れた音楽、演劇、舞踊などの鑑賞ができるホール ・ 市民が習得・創造した音楽、演劇、舞踊などが表現できるホール ・ 芸術文化に関心の高い人材を育てていくホール ・ 多くの市民が舞台芸術を楽しむため、誰もが利用しやすいホール ・ 市内外・海外の各種組織・団体が集い、会議や発表ができるコンベンション機能を備えたホール <p>施設・設備の概要</p> <p>■メインホール</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 多目的ホール ・ 客席数 800～1,000席 スロープ ・ 席数が不足する公演は、公演回数を増やすことによって対応する <p>■サブホール</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 音楽・舞踊向き多目的ホール ・ 客席数 400～500席 移動観客席（平土間） ・ 従来の機能に加え会議テーブル、音・映像機能などコンベンション機能の追加 <p>■共通（舞台・バックヤード）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ プロが利用するような施設・設備、最新技術の導入 ・ 使いやすいバックヤード（舞台袖、楽屋） ・ 機能的な配置・動線（搬入、舞台への出入り、製作） （客席・ホワイエ） ・ 快適な観覧、休息ができ、全ての人に優しいデザイン ・ わかりやすいシンプルな動線・インフォメーション ・ ホワイエは和歌山城が眺められ、館外には利用者の人影を写し、にぎわいを演出する

必要な7つの機能							主な施設の使い方
『発信』をテーマとした基本機能				『交流』をテーマとした新たな機能			
鑑賞	表現	創造	育てる	くつろぐ	集う	出合い	
●	●		●				<h3>展示室</h3> <ul style="list-style-type: none"> 市の美術展など大小様々の芸術文化作品を鑑賞・発表するための展示空間 芸術文化活動や参加型体験型イベントの作品の発表によって人材を育てる展示空間 <p><施設・設備の概要></p> <ul style="list-style-type: none"> 市の美術展は展示室の他、ロビー等を足して必要な展示スペースを確保 高さ、長さ、重さに対応できるような搬出入動線、可変型展示スペース、照明等の設備が整った施設
							<h3>練習室</h3> <ul style="list-style-type: none"> 多くの市民が音楽、演劇、舞踊などの創造や芸術文化に関わる人材育成のために利用できる練習室 <p><施設・設備の概要></p> <ul style="list-style-type: none"> 音楽、演劇、舞踊など練習に毎日使える部屋 音や振動に対応した練習しやすい練習室・設備の配置
●	●	●	●				<h3>和室</h3> <ul style="list-style-type: none"> 茶道、華道など伝統芸能が表現できる和室 伝統芸能の練習で創造や育成するために毎日使える和室 <p><施設・設備の概要></p> <ul style="list-style-type: none"> 発表会・展示が可能な一定規模の空間の確保 可変できる中小の和室で利用しやすい空間の確保

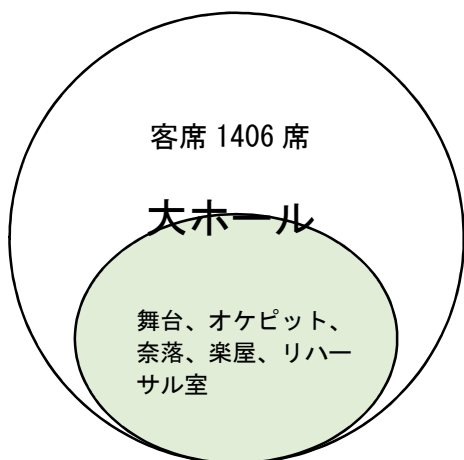
必要な7つの機能							主な施設の使い方
『発信』をテーマとした基本機能				『交流』をテーマとした新たな機能			
鑑賞	表現	創造	育てる	くつろぐ	集う	出会う	
	●				●		<h3>会議室</h3> <ul style="list-style-type: none"> 市民や各種組織・団体が集まり会議・講習会・ワークショップができる部屋 複数の組織・団体が一同に集って様々な会議や発表・展示会ができるコンベンション機能を備えた部屋 <p><施設・設備の概要></p> <ul style="list-style-type: none"> 様々な形態の会議が開催できる会議室 音や映像などの展示・発表の設備の導入 マイク、テーブルなど会議仕様設備の導入 全ての人に優しいデザイン 会議室ロビーからは、和歌山城が眺められ、館外には利用者の人影を写すことによって、にぎわいを演出する
			●	●	●	●	<h3>交流ロビー</h3> <ul style="list-style-type: none"> 館内利用者が一時的にくつろげる空間 観光客、学生などが、待ち合せやくつろぎを求めて、気軽に立ち寄れる空間 芸術文化に関心のなかった人も芸術文化に出会うことができるよう、情報提供や展示、催しが行われる空間 <p><施設・設備の概要></p> <ul style="list-style-type: none"> 多くの市民を迎え入れる交流ロビー くつろげる空間であるとともに、館内の催し・利用法が把握できる情報提供をする空間 気軽に立ち寄れるような館外に開かれた空間 館内と館外、双方からみられるみられる関係をつくり、いつも誰かがいるにぎわい風景を表出する 展示やロビーコンサートができる小スペースを配置し、自然に芸術文化に触れることができる環境を整える レンタルサイクルや自転車ラックなどの自転車利用者が利用しやすい設備の配置

必要な7つの機能							主な施設の使い方
『発信』をテーマとした基本機能				『交流』をテーマとした新たな機能			
鑑賞	表現	創造	育てる	くつろぐ	集う	出会う	
●	●	●	●				<h3>倉庫</h3> <ul style="list-style-type: none"> 鑑賞、表現、創造のため、利用者団体の舞台道具、展示用品などの保管に利用できる倉庫 個人や団体が練習で利用する楽器や練習道具などが保管できるスペースやロッカー設備 <p><施設・設備の概要></p> <ul style="list-style-type: none"> 大小の区画変更が可能な、貸し出し倉庫
				●	●		<h3>飲食施設</h3> <ul style="list-style-type: none"> ホールや観光、ビジネス来訪者がくつろげるフォーマルなレストラン 市役所、大学、和歌山城への来訪者、散策者も普段使いで集まることのできるカジュアルなカフェ <p><施設・設備の概要></p> <p>■レストラン</p> <ul style="list-style-type: none"> お城を美しく眺めるレストランとして配置 <p>■カフェ（追加施設）</p> <ul style="list-style-type: none"> 館内と館外がつながる空間を持つことにより、館外から訪れやすくしたり、館内外で一体となったにぎわい風景を通りに表出するように図る
●				●	●		<h3>ショップ</h3> <ul style="list-style-type: none"> 公演中のグッズ販売など、観覧を促進するためのショップ 観光客が集まるようなみやげ物販売 芸術文化に関心のなかった人も芸術文化に出会うことができるよう、芸術文化を紹介・実演しながら販売もできる工夫 <p><施設・設備の概要></p> <p>■芸術文化総合案内／みやげ物店（追加施設）</p> <ul style="list-style-type: none"> グッズ販売、市内催し物案内、相談カウンターなどの配置

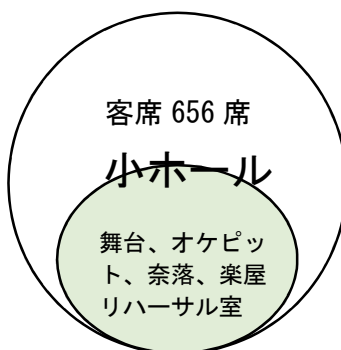
必要な7つの機能							主な施設の使い方
『発信』をテーマとした基本機能				『交流』をテーマとした新たな機能			
鑑賞	表現	創造	育てる	くつろぐ	集う	出合い	
				●		●	<h3 style="background-color: #0056b3; color: white; padding: 5px;">広場・屋外イベントスポット</h3> <ul style="list-style-type: none"> 館内のにぎわいが外へもつながり、ふいに立ち寄りたくなるようなくつろぎの広場 いつも変化があり、発見や新たな出合いがあるイベントスポット 学生がふらっと集える場 <p><施設・設備の概要></p> <p>■広場（屋外追加施設）</p> <ul style="list-style-type: none"> 木陰のあるデッキ広場やガーデンソファなどにくつろげる空間を演出 <p>■屋外イベントスポット（屋外追加施設）</p> <ul style="list-style-type: none"> 広場や敷地内にイベントスポットを点在させ、街角コンサートや屋台車に思いかけず出会える意外性を演出する
●	●	●	●		●		<h3 style="background-color: #0056b3; color: white; padding: 5px;">駐車場・駐輪場等</h3> <ul style="list-style-type: none"> 鑑賞、表現など、公演時間に集中する駐車需要や搬出入交通に対応した駐車場 送迎用の車寄せ 利用者のための駐輪場 <p><施設・設備の概要></p> <p>■駐車場</p> <ul style="list-style-type: none"> 周辺駐車場と連携しながら駐車台数を確保する 駐車場料金の事前清算システムなどによる出庫集中の緩和 障がい者に配慮した規格、設備（雨よけ、音声案内）、館内へのアクセスを確保 <p>■車寄せ（屋外追加施設）</p> <ul style="list-style-type: none"> 雨よけや音声案内の確保 <p>■駐輪場</p> <ul style="list-style-type: none"> 道路へアクセスしやすく、景観上配慮した整理しやすい駐輪場

～他施設と競合しない機能・規模の設定～

現在の市民会館



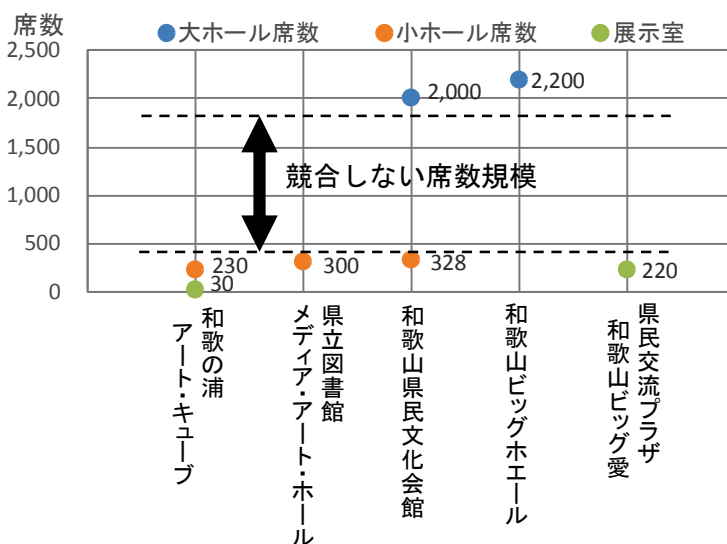
(音楽が多い多目的)



(マルチに利用される多目的)



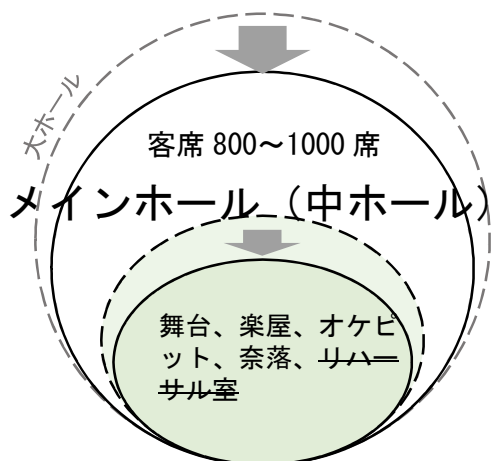
(舞踊・講演会が多い多目的)



(再掲) 新市民会館の施設整備の方針



大ホール縮小+小ホール拡大



(音楽、演劇が多い多目的)

市民ホール機能拡充



(音楽、舞踊、講演会が多い多目的)

12.1. 施設構想

前述した主な施設の規模・機能の考え方をまとめ、施設の構想を示します。

施設構成・規模

多目的に利用できる、800～1,000席規模の音楽性能に優れたメインホールとコンベンション機能を備えたサブホール、展示室、リハーサル室、店舗等を備えた施設構成とします。

駐車場・駐輪場は、市役所中央駐車場の有効活用等、既存駐車場を活用しながら駐車台数を確保します。

ユニバーサルデザインや景観にも配慮した整備を行い、和歌山市の芸術文化や魅力が存分に発信できる施設を目指します。

●メインホール

- ・ 800～1,000席の高い音響性能を備えた多目的ホールとします。
- ・ 舞台、楽屋、オーケストラピット、奈落、映写室等を備えたホールとし、主に音楽、演劇に対応します。

●サブホール

- ・ 400～500席の平土間式、移動観覧席のホールとします。
- ・ 舞台、楽屋等を備えたホールとして、主に音楽、舞踏、講演会に利用される多目的ホールとします。
- ・ 会議テーブル、音声・映像機能などを備えることで国際コンベンションにも対応します。

●その他施設

- ・ 市民広場、展示室、前室ロビー、練習室（リハーサル室と兼用）、和室（茶室）、会議室、倉庫等を整備します。
- ・ 民間事業者が経営する商業施設等を配置します

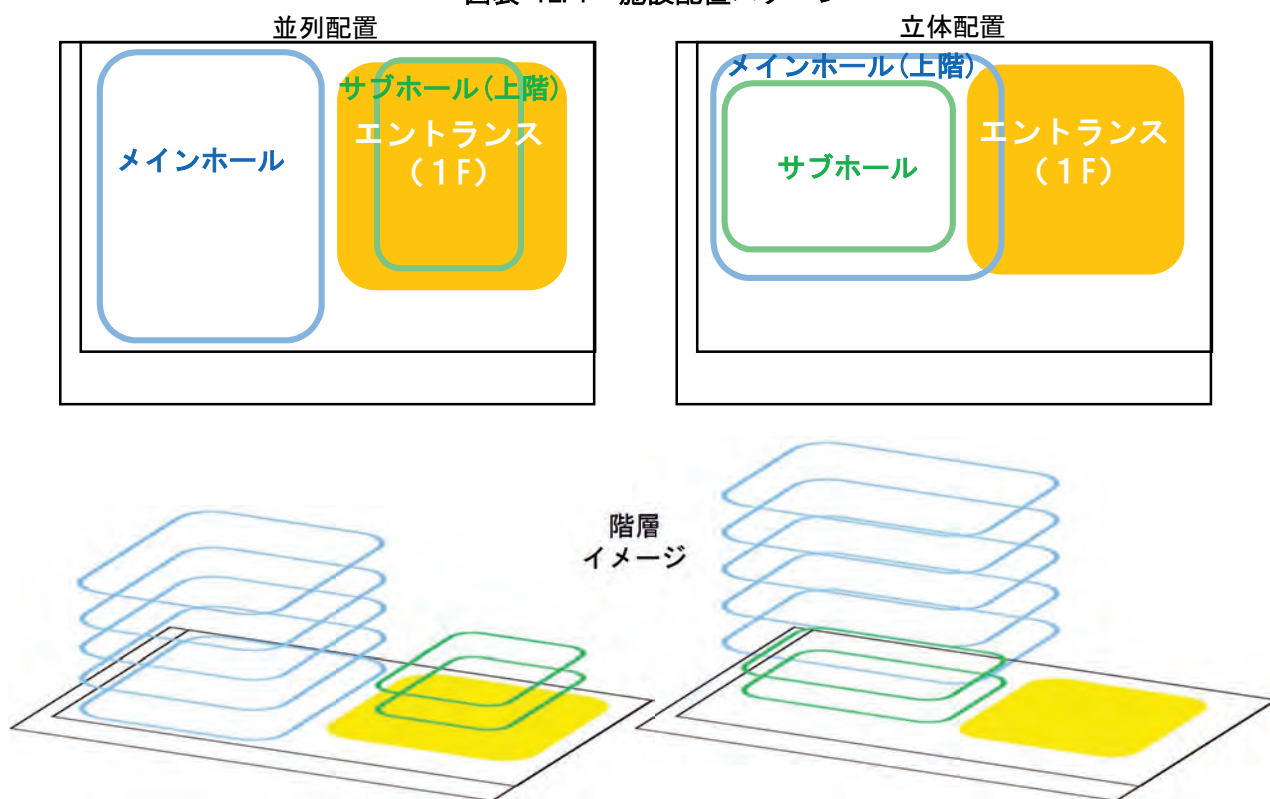
12.2. 施設配置イメージ

12.2.1. 施設の配置パターン

新市民会館の「メインホール」「サブホール」と、施設を中心・動線の要なる「エントランス(交流ロビー)」の配置パターンを設定し、配置の方向性を検討します。なお「エントランス(交流ロビー)」については、多くの市民・来訪者を引き入れる屋外広場と一体につながるように1階に配置します。

以上より、メインホールとサブホールを並べる「並列配置」と、メインホールとサブホールを積み重ねる「立体配置」の2つのパターンを比較します。

図表 12.1 施設配置パターン



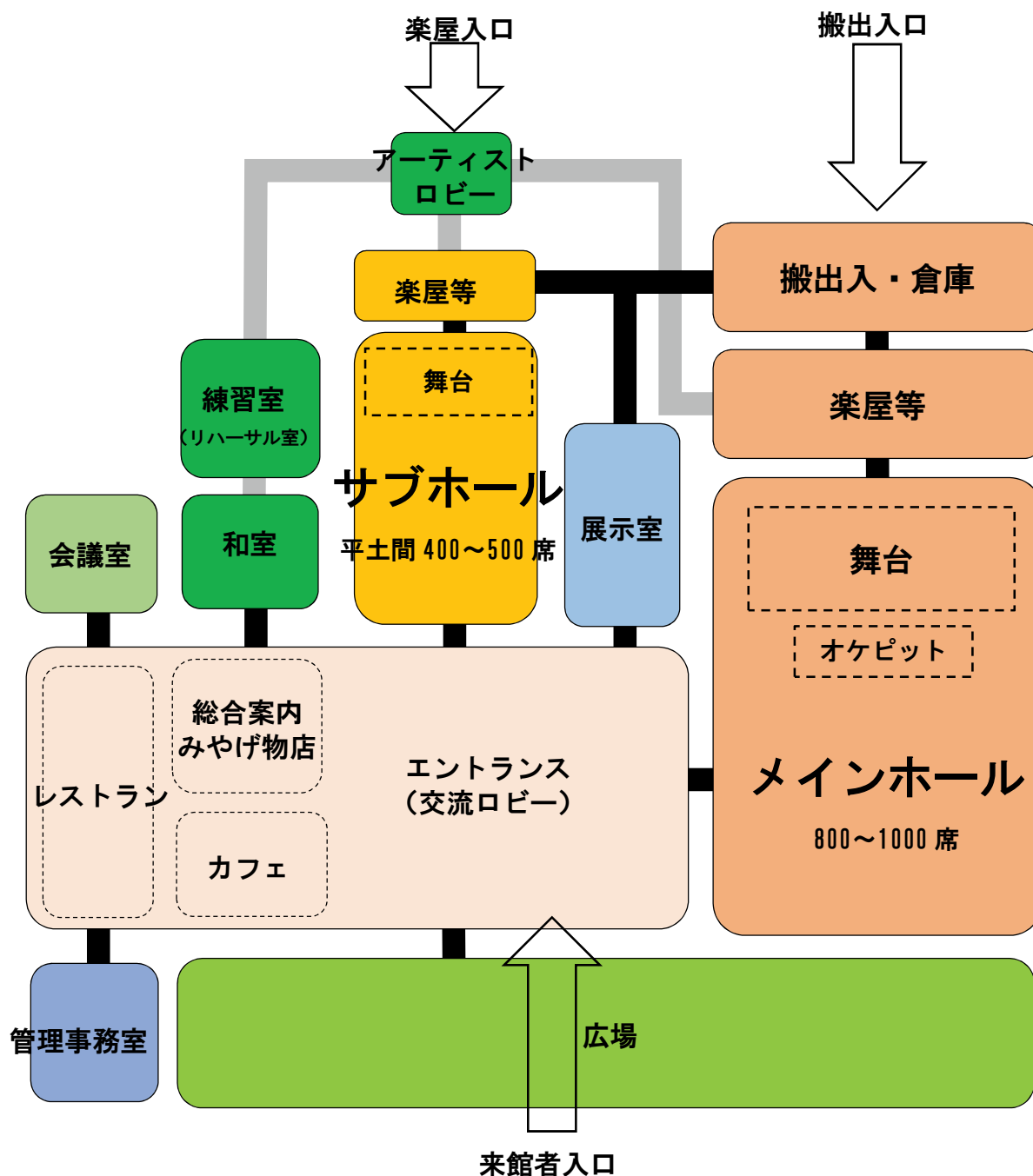
パターン	並列配置	立体配置
概要	ホールを横に並べた案	ホールを積み重ねる案
メリット	建築のボリュームが抑えられ景観上良好。事業費の圧縮も可能。	バックヤードやロビー・ホワイエ、ホール席などにゆとりある配置が可能。
デメリット	ホール規模やバックヤードをコンパクトにまとめていく必要がある。	高層構造や昇降機能などで事業費が増額する。建築物が高層化するため、景観への配慮が必要。

配置パターンは、他の施設と競合しない規模・機能への適正化や、全国的にもコンパクトな施設の事例が出てきていることに加え、事業費の圧縮が可能な**並列配置案**を採用します。

12.2.2. 主な施設のつながり

主な施設のつながりを以下の図に示します。

図表 12.2 主な施設のつながりと来館出入口



主な施設の規模を想定して算定すると

床面積は、概ね 10,000 m²~11,000 m²

となります

12.2.3. 敷地周辺との動線イメージ

図表 12.3 敷地動線

人の動線

けやき大通り : 公共バス利用者、和歌山城観光客、ホテル等利用者を想定

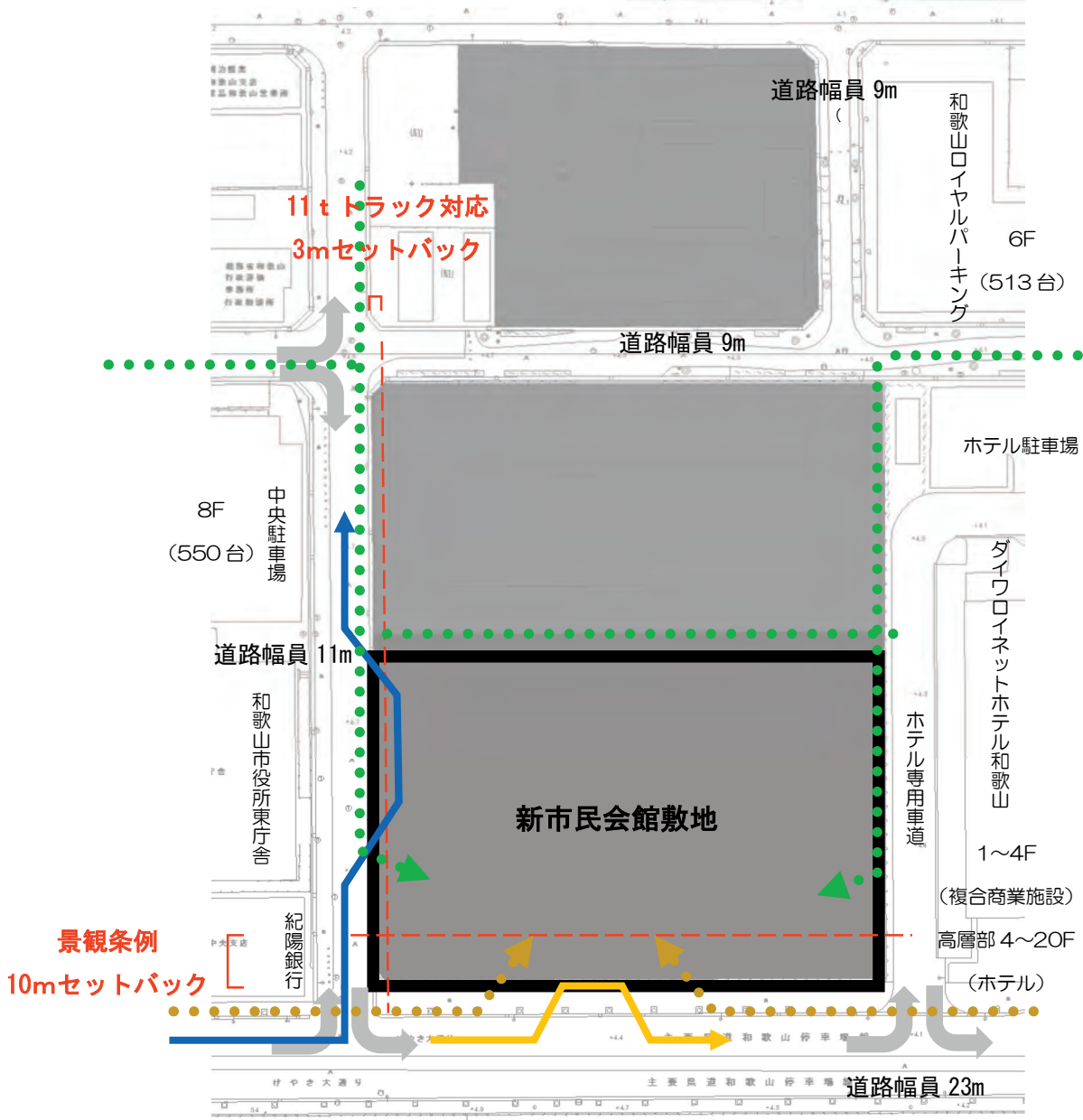
敷地西側の道路 : 周辺駐車場利用者、市役所利用者、大学生、オフィス街来訪者を想定

車両動線

送迎 : 正面入口とし、車寄せを配置

一般駐車 : 周辺駐車場との連携

搬出入口 : 11トンロングトラック出入庫に対応し、敷地西側は道路から3mセットバックして歩道を確保。



12.3. 建物イメージ

施設の配置パターンを「並列配置」(P62)、主な施設のつながり(P63)、敷地外の動線イメージ(P64)と、市民や国内外の来訪者が立ち寄る屋外広場のイメージを描いた「にぎわいの文化交流拠点」のイメージパースを示します。



12.4. 概算事業費

主な施設の規模の設定より、建築物の延べ床面積は約 10,000～11,000 m²とし、近年の市民会館の建設費の動向から建設単価は 65 万円/m²と想定しています。

外構等に分類した広場や駐車場等については、周辺施設との連携を検討することによって、事業費等を抑えることができる可能性もあるため、ここでは概算には含まれていません。

※ 今後、経済情勢により、建設単価の変動も考えられますので、随時見直しを行います。

13. 景観について

新市民会館の景観形成は、和歌山城周辺地区として良い景観を形成するため、建物の高さや、けやき大通り沿いの空地の確保、外観デザインについて十分配慮する必要があります。市民会館建設にあたっての景観への配慮については、「和歌山市景観計画 和歌山城周辺景観重点地区」に基づくとともに、本構想では景観整備の考え方を示します。

また、今後、策定予定の「市民会館整備基本計画」において、十分な景観シミュレーションを行いながら、具体的な方策を設計指針としてまとめていきます。

13.1. 景観整備の考え方

歴史的・文化的資源に恵まれた和歌山城周辺の環境を活かし、和歌山公園と調和した景観形成や緑化を図り、本市のランドマークとなる施設を目指します。そのために、市民会館とその周辺の景観形成についての考え方を示します。

(1) 外観デザイン

市民会館の外観デザインは、和歌山城周辺の歴史文化の趣と緑豊かな環境と調和した表情を醸し出すものとし、地区の町並み景観をリードする景観形成に資するものとしめます。

外観デザインについては、平面的な緑地の配置だけでなく、屋上緑化や壁面緑化を含めて検討します。また、その際は植物の特性を把握し、一定の年月を経て成長した段階を想定して計画します。

(2) 高さとボリューム

施設の高さやボリューム（おおむねの大きさ）は、和歌山市の和歌山城周辺景観重点地区の景観形成基準に従うと共に、沿道側の建物の高さやボリュームを抑制したデザインを採用し、周辺の歴史文化の趣と緑豊かな環境との調和や周囲への圧迫感の低減を図ります。

特に基本計画では、具体的に高さを感じさせにくいデザインや建物形態についての検討を行います。

(3) 沿道空間

けやき大通り沿いの施設の前庭は、景観形成基準に従いセットバックするとともに市民会館へのアプローチや観客の滞留空間、あるいは市民広場として子どもの遊び場やマルシェ・屋外イベントなどに利用できるように配慮します。

前庭は、和歌山城や沿道の通行者から見た場合の景観に配慮し、芝生や低木高木など軽やかで動きのある緑化の検討を行います。

(4) 施設整備と景観の関係

市民会館を整備するにあたっては、和歌山市景観計画や和歌山城周辺景観重点地区の景観形成方針に基づいて計画することとなりますが、市民会館のメインホールで演劇やオペラなどの上演を行う為には、舞台上部を高くして様々な舞台装置を設置する必要があり、どうしても高い部分が必要となってきます。また、市民の要望を全て配置すると、建物のボリュームを抑えることが難しくなります。

このように、充実した施設設計と景観との関係は一致しない方向にあり、施設計画への制約、演出への影響、工事費・維持管理費のアップなどとも関係することから、バランスを取りながら計画を進める必要があります。

13.2. 市民会館建設予定地にかかる景観等に関する制限について

和歌山城周辺重点整備地区の景観形成方針及び景観形成基準では、けやき大通りからの壁面位置の後退距離が原則 10m、最高高さ制限が 75m（標高）となっています。

14. 管理運営

新たに整備しようとしている市民会館は、単にハードとしての施設ではなく、芸術文化による社会教育や生涯学習を行う使命を有した施設です。更に、中心市街地の活性化にも寄与するという役割も担っており、ソフト面の管理運営が果たす役割は非常に重要です。今後、施設整備段階に応じてそのような観点からハード面である施設整備とソフト面である管理運営を両輪として検討を進めていく必要があります。

14.1. 運営組織

①管理運営体制

現在、公立文化施設の管理運営体制は、自治体直営か指定管理者制度のいずれかとしている施設が大半を占めます。それぞれの体制にメリットとデメリットがあります。

図表 14.1 組織体制別のメリット、デメリット

管理運営体制	メリット	デメリット
自治体（直営） 自治体が直接運営	<ul style="list-style-type: none"> 自治体の意向にあった管理運営が行いやすい。 施設の事業方針にあった自主文化事業を行うことが容易である。 	<ul style="list-style-type: none"> 職員の移動等により専門の職員が育ちにくい。そのため、管理運営のノウハウが積み重ねられにくい。 利潤を上げるという目的が持ちにくく、経営感覚に欠け、緊張感を持った経営が行われにくい。 施設の性格上、不規則な勤務時間となるために、公務員としての労務管理上の問題が起こりやすい
非営利組織・民間企業等（指定管理制度） 自治体が施設の理念や使命を明確にして、文化団体、NPO、民間会社等外部法人等に指定管理制度で運営を任せ、期間を定めて委せる。	<ul style="list-style-type: none"> 各種団体や民間のノウハウを使って質の高いサービスを継続的に行う事が出来る可能性がある。 人事異動が少ないために専門の人材が育ちやすい。 一般的に直営よりも安い金額で良好なサービスが得られやすい。 	<ul style="list-style-type: none"> 施設の理念や使命を明確にし、わかりやすい契約をして、きちんとしたモニタリングや評価を行わないと、当初の理念や使命に応じたサービスが行われずおそれがある。
民間企業（PFI等） 自治体が建物整備の基本方針等、運営のための施設の理念や使命を明確にして、民間事業者が建設段階から運営までを一貫して行う。	<ul style="list-style-type: none"> 民間のノウハウを使って建設から運営までを一貫して行う為に、効率的でサービスの高い運営が行われる可能性がある。 無駄を省いた効率的な運営、利益を生み出す努力、寄付金や助成金など確保のための営業努力などを積極的に行い、経営を良くする姿勢が強い 	<ul style="list-style-type: none"> 施設運営の事業採算が合わない場合には、事業者の参入がない場合がある。 途中で採算が悪化すると運営のサービスが低下する等のおそれ、行政が追加負担をしなければならないなどのリスクもある。 きちんとしたモニタリングや評価を行わないと、当初の理念や使命に応じたサービスが行われずおそれがある

現在の市民会館は、指定管理者制度により管理運営されていますが、上記の内容などを含めて考えると次のような視点で再検討する必要があります。

管理運営を再検討する視点

- 施設の理念や役割をより明確にする
- 事業展開内容をより明確にする
- 部門に応じた専門家の配置を行う
- 市民参加、市民協働の企画運営が出来るような組織づくりを行う
- 施設の管理部門と施設の企画運営を明確に分けて、効率的で効果的な管理運営をめざす

以上のような条件から、「指定管理制度」を継続していくかどうかについても早い段階で決定していくことが必要です。

②基本業務と組織

施設の管理運営組織が行う業務には、一般的には以下のような業務があり、当該施設が展開する事業の内容、業務、規模、施設を取り巻く状況に応じて構成されます。施設の事業方針に照らし合わせて、業務の内容と担当部門を構成していく必要があります。

基本業務

- ・ 経営管理部門・・・財務・経理など
- ・ 事業企画管理業務・・・事業計画立案等、ホールの運営
- ・ 顧客管理業・・・顧客リスト、友の会の事務管理
- ・ 舞台装置等運営・・・照明、音響、舞台装置等の舞台設備の技術的な運営
- ・ 広報宣伝業務・・・営業、ポスター制作・広告・チケット販売など
- ・ 施設全体の維持管理業務・・・建物、設備などの維持管理・補修
- ・ 付帯サービス事業・・・飲食、物産販売、テナント管理、受け付けなど

図表 14.2 新たな市民会館に求められる業務

文化活動支援	文化活動以外の活動支援	施設の維持管理
<ul style="list-style-type: none"> ・ 施設の貸し出し ・ 地域の芸術文化アドバイス、情報提供、サポート ・ 鑑賞事業 ・ 参加・育成事業 ・ 芸術文化作品の創造 ・ 館外での文化事業（出前出演など） 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 観光交流のための活動の支援 ・ コンベンション活動の支援 ・ 憩いや休憩の場としての利用の支援 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 施設の維持管理 ・ 安全対策 ・ 設備更新・改善・改修

14.2. 専門の知識を持った人材の配置と活用

運営組織の能力を高めるためには、まず、職員が研修や実務経験を通じて能力向上を図っていく必要があります。しかし、行政職員の場合、自主事業の企画や実施のための専門知識やノウハウが不足していることも想定され、それを蓄積していくのに時間や労力がかかるという問題点があります。また、せっかく蓄積された専門知識やノウハウも、人事異動などにより継承できなくなるおそれもあります。

そこで、他都市では、芸術監督など専門的な知識を持った人材を雇用して管理運営組織内に配置することで企画力を高めている事例がありますが、この場合、専門的な知識をもった人材が見つかりにくいという点にあります。また、行政に関して有する知識についても、人により差が生じてきます。

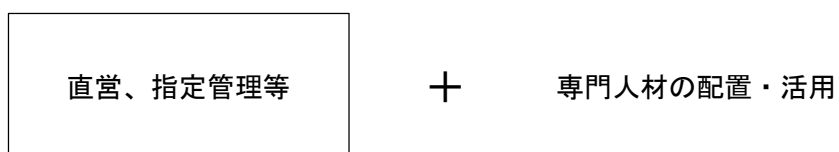
これらの点を踏まえ、新しい市民会館の業務は地域の文化振興や活性化といった行政施策の一環であるとの認識を持ち、かつ専門的な知識を有し会館の運営に力を発揮し得る人材を発掘し、効果的に活躍していただく方策が、今後の施策運営の大きな課題となります。

図表 14.3 専門の知識を持った人材の活用例

種 類	内 容	プラス面	マイナス面
芸術監督、プロデューサー制	<ul style="list-style-type: none"> 施設の経営組織の中に「芸術監督」や「プロデューサー」といった「職」を設け、芸術文化の創造者や専門家、造詣の深い人材に事業の企画・制作を委ねる。(施設経営の長に登用することもある) 	<ul style="list-style-type: none"> 当該人材の感性やソフトの蓄積を活かした特色のある事業展開が期待できる 著名人材を抱えることで、施設の宣伝効果が期待できる 	<ul style="list-style-type: none"> 事業に偏りが生じるおそれがある 多忙な著名人の場合、地域との関係が築けず、名目的なものになるケースもある 行政と芸術文化のパイプ役と成る人材がいない
複数芸術監督制 (集団企画委員会制)	<ul style="list-style-type: none"> 複数の専門家がそれぞれの権限範囲で企画・制作を行う 	<ul style="list-style-type: none"> 独善的にならず、各委員(監督)の持ち味を活かした多様性のある活動が可能になる 	<ul style="list-style-type: none"> 活動における強烈な個性を持ちにくい 委員会に求心力がないと、一貫性のない(ばらばらの)企画になるおそれがある
企画管理委員会制、顧問制、諮問委員会制	<ul style="list-style-type: none"> 芸術文化領域の専門家、文化団体代表、その他有識者などで構成される委員会が企画へのアドバイスを与え、サポートする 	<ul style="list-style-type: none"> 多様なアイデアが得られ、事業の広がりが得られる 地域のコンセンサスが得られやすい 	<ul style="list-style-type: none"> 責任や権限がないため、形骸化しやすく、単なる承認機関になるおそれがある
学芸員制	<ul style="list-style-type: none"> 音楽学芸員など職能・職種を明確にした「職」を設置し、施設の専属専門家として企画政策を行う ただし、こうした資格に法的な根拠はない 	<ul style="list-style-type: none"> 専門的な活動を継続性と責任を持って実行できる 行政や市民の連携で、地域に根ざした専門的活動を展開しやすい 	<ul style="list-style-type: none"> 当該人材を育成し、公的資格を与える教育機関が存在しない 時間の経過と共に、閉鎖的な職場となつて、組織の沈滞化、企画力の低下をきたすおそれがある

それぞれの専門家の活用については一長一短があり、また地域特性や人材確保の見通し等の諸条件もあるため、選定にあたってはそれぞれのプラス面とマイナス面を比較検討していく必要があります。このことは直営の場合に限らず、指定管理者を決める場合においても、専門性の高い運営が行われるような事項を条件とするよう考慮する必要があります。

管理運営体制



- ・ 文化活動支援
- ・ 文化活動以外の活動支援
- ・ 施設の管理維持

14.3. 管理運営の方向性

新市民会館の基本理念の実現をめざすとすれば、以下のような管理運営を行う方向が望ましいと考えられます。

基本理念

芸術文化・人に出会う喜びや感動が、まちの元気につながるにぎわいの文化交流拠点

基本方針

- 多様な芸術文化を市民が創造・発信していく文化拠点
- 和歌山市の芸術文化のシンボルとして、市内外、海外を広くつなぐ交流拠点
- いつでも発見があり誰かがそこにいるにぎわい発信拠点



新市民会館の施設運営の方針

- ① 貸館業務中心の「待ち」の運営から「攻め」の運営への転換
- ② 専門の知識を持った人材の配置と活用
- ③ 市民が利用しやすい運営
- ④ 常に新しい意見を取り入れた運営



管理運営の方向性

新市民会館の管理運営について、例えば、施設の経営と芸術文化振興を企画していく役割を分けて人材を配置し、市民や専門家が企画運営に関与し、市民の意向を会館の運営に反映させる方法が考えられます。この場合、芸術監督またはプロデューサーに経営センスがあれば館長を兼任する方法も考えられます。

このような方法をとるとしても、館長・芸術監督などの人材の決定は、施設の仕様に多少なりとも影響を及ぼす可能性があります。施設整備のスケジュールの中でも、実施設計の段階で十分な調整が可能な状態にしておくことが重要です。

そのためには、管理運営方法や人材配置、組織構築を早い段階で決定し、人材探しや組織の設置を進めていく必要があります。

15. 整備手法

15.1. 民間活力の活用を含む事業手法

事業手法として民間活力を含む検討を進める場合、資金調達やノウハウの導入面でメリットが生まれる場合がありますが、どの程度の金銭的な価値（VFM（Value for Money））が達成されるか、各事業の方式リスクを十分に検討して導入を行う必要があります。

図表 14.4 民間活力の活用を含む事業方式

事業方式	事業方式の概要	民間活力の可能性	事 例
従来方式	設計、工事、維持管理・運営を順次自治体が発注する手法で、行政が工事発注を行う際の標準的な手法である。 市の仕様書に基づき設計を行うため、市の意向を十分に設計に反映することが出来る。	基本的に市の仕様書に基づき、発注することとなるが、設計における選定手法を企画提案型にすることにより、民間の発想を反映出来る。	那覇市新文化芸術発信拠点施設基本設計業務（H27年度） 柳川市民文化会館（仮称）設計業務委託（h27年度）
DB Design Build 方式	一般的に詳細な仕様書を提示せず施設に求める性能（機能）質を明らかにし、設計と工事を一体的に発注する手法で、維持管理運営は直営、または指定管理により行う。 PFI 方式では、資金調達も請負業者が行う事と成るが、DB 方式では、資金調達は発注者側が行う。	一般的に性能発注となり、設計と工事を一括発注するために、工事の施工業者の意向を反映することが出来る。	鳥取砂丘美術館整備事業（H24年度） 岡谷市新美術考古館整備事業（H25年度）
DBO Design Build Operate 方式	DB 方式に加え施設開設後の維持管理・運営までを含めて一体的に発注する手法である。 設計から維持管理・運営までの詳細な提案が必要で、事業者の組織化が必要となるため、事業者側の負担が大きく、一般的に従来手法に比べて施設完成までの期間が長くなる。	一般的に性能発注となり、DB方式同様に、工事の施工業者の意向を反映することが出来る。 設計から維持管理・運営までを一体的に発注するため、設計段階において施工業者の意向を反映出来るだけでなく、維持管理・運営に係る意向も、設計や工事に反映させることが可能となる。	琵琶湖流域下水道湖南浄化センター汚泥燃料化事業（H27年度予定） 新潟市アイスアリーナ整備・運営事業（H25年度）
PFI Private Finance Initiative 方式 大きく分けて、事業の資金調達・整備・管理運営・施設の所有などの違いにより3つの手法に分けられる。運営中または事業終了後の施設所有者が発注者か事業者かによるなどの違いがある。	通称PFI法に基づき、設計から維持管理・運営までを一体的に発注する手法で、必要な資金については、民間事業者が資金調達を行うことにより、発注者側は財政支出の平準化を図ることが出来る。 PFI法に基づく諸手続や設計から維持管理・運営までの詳細な提案が必要で、事業者の組織化が前提となるため、事業者側の負担が大きく、一般的に従来手法に比べて施設完成までの期間が長くなる。	DBO方式と同様に設計から維持管理・運営まで受注者のノウハウを反映させることが出来る。 設計から維持管理・運営までを一体的に発注するため、設計段階において施工業者の意向を反映出来るだけでなく、維持管理・運営に係る意向も、設計や工事に反映させることが出来る。	豊橋市文化芸術交流施設整備事業（H25年度） いわき市文化交流施設整備事業（H8年度）

15.2. 民間活力導入の可能性と検討手順

民間活力導入を検討する上での与条件を整理し、民間活力導入の可能性について整理します。

民間活力導入を検討する上での与条件

1. 事業の計画から事業完成までの期間がタイトで十分な検討期間が取れない。
2. 施設が大きな利益を生み出す事が難しいため、サービス購入型などの民間事業者が運営を行うメリットを準備しておく必要がある。
3. 設計から建設に関して一貫して行う事が出来るのは民間にとっても大きな魅力であるが、資金回収が長引き、管理運営までを引き受けるとなると民間側のメリットが少なくなるために事業に参入する優良企業が少なくなる恐れがある。



民間活力導入の可能性

1. DB方式・・・管理運営がないために民間の参入が容易であるが、行政のメリットも少ない（市民会館は専門性の高い特殊建築物であるため、経験豊富な専門業者に設計から建設まで一貫して委せる魅力はある）
2. DBO方式・・・管理運営を含むために、民間も管理運営の専門業者と共同体を組む必要があり、時間的な制約の中で参入が難しい面がある。行政としては運営を専門業者に任せることが出来るために、メリットはあるが、金銭的なメリットは少ない。
3. PFI方式・・・管理運営を含み、かつ、初期投資資金を出すと成れば、民間企業としてのメリットが低いために参入企業がない可能性がある。行政としてはDBO方式よりも資金投資面でメリットが高い。

民間活力導入の検討手順

民間活力導入の具体的な検討を進めるためには、具体的に民間企業のニーズを把握するため実態調査を行う必要があります。同時に、専門家を交えた検討組織などで、十分議論を行っていく必要があります。

16. 整備スケジュール

現段階での基本構想から開館までの概ねのスケジュールは以下のとおりです。

図表 14.5 整備スケジュール

	1年目 平成27年度	2年目 平成28年度	3年目 平成29年度	4年目 平成30年度	5年目 平成31年度	6年目 平成32年度	7年目 平成33年度	
計画・設計 ・工事	基本構想	既存校舎 解体設計 基本計画 基本設計	既存校舎 解体工事 埋蔵文化財発掘調査 実施設計		建設工事		供給開始予定	
管理運営		駐車場 検討 管理運営 方式検討 民間活力 導入検討			駐車場整備			
資金		和歌山市民会館整備基金の募集						

17. 管理運営、施設整備の検討課題

今後、市民会館の整備及び運営を進めていくために、必要な課題をまとめます。

1. 管理運営方法や運営責任者、芸術監督・プロデューサーの選定については、本構想で一定の方向性を検討しましたが、さらに市民や専門家が企画運営に参画していく方法を検討する必要があります。
2. 民間活力の導入に関しては、検討の時間を要することから、サウンディング調査（民間事業者を個別ヒアリングする市場調査）の導入も視野に入れ、早急に対応を検討する必要があります。
3. 観光機能やコンベンション機能、誰もが気軽に利用できる機能を有する新しい市民会館のハード面については、基本となる機能とボリュームの検討を行いました。設備や構造面の検討については、基本計画以降の具体的な調査が必要となります。したがって、技術面やデザイン面はもちろんのこと、施設の使い方や使われ方については、完成後に市民が誇りに思い誰もが使いたくなるようなものとするために、市民との協働作業を継続していく必要があります。
4. 敷地規模や施設規模は、現在の市民会館よりも小さくなることが予想されますが、市民会館だけに留まらず、市民の芸術文化の舞台や観客席をまちなか全体に広げていくという発想が必要です。市民会館を核として、まちなかの色々な場所・場面を、芸術文化の舞台とすることにより、うるおいある市民生活をつくり、本市全体の活性化につなげていくことが重要です。そのために、市民の積極的な参加と楽しみ・生きがいを広げて行くための仕掛けづくり、組織づくりを進める必要があります。